

関西医科大学 広報



枚方市総合文化芸術センター 関西医大大ホールでの入職式

新年度のスタートを共に。

Vol.69

CONTENTS

トピックス：入学式

P.1

大学：クラウドファンディング実施記者
会見

P.15

トピックス：入職式

P.7

大学：学長賞授与式

P.22

トピックス：卒業式

P.8

病院：附属病院市民公開講座

P.23

令和7年度関西医科大学入学式

4月5日(土) 10時30分から枚方市総合文化芸術センター関西医大大ホールにおいて3学部3研究科合同の「令和7年度関西医科大学入学式」が行われました。385名の新入生(医学部121名、看護学部105名、リハビリテーション学部99名、大学院医学研究科43名、大学院看護学研究科8名、大学院生涯健康科学研究科9名)が医療の道への第一歩を踏み出しました。

入学式学長式辞

学長 木梨 達雄

本日、関西医科大学に入学された新入生の皆さん、入学誠におめでとうございます。今年は皆さんの入学を祝うように見事に桜が咲き誇っており、一層晴れやかな祝福の場となりました。

今年度、医学部121名、看護学部105名、リハビリテーション学部99名の計325名と大学院には医学研究科43名、看護学研究科8名、生涯健康科学研究科9名、計60名が入学されました。新入生の皆さんを迎えることは、私たち関西医科大学の教職員にとりまして、誠に大きな喜びであります。また本式典にご臨席を賜りましたご来賓の皆様は厚く御礼申し上げます。皆さんは、コロナ禍のなか、高校時代を過ごし、厳しい受験を突破して見事に合格されました。これまでの皆さんの努力に敬意を表します。また、皆さんの勉強と生活を支えてこられたご家族や関係の皆様は心からお祝いを申し上げます。

新入生の皆さんは、これから始まるキャンパスライフに大きな期待を抱いておられることでしょう。関西医科大学について紹介します。本学は昭和3年(1928年)に枚方市の牧野の地で、大阪女子高等医学専門学校として創設され、その後大阪女子医科大学と改名し、昭和29年(1954年)に男女共学制の関西医科大学となりました。今年で創立97年を迎え、医学部卒業生総数は9,052名となります。また看護学部は昭和7年の附属看護婦養成所を前身とする、看護専門学校が5,622名の卒業生を送り出し、その後看護学部を引き継がれ今年4期生を含めて376名が卒業しています。令和3年度リハビリテーション学部が開設され3学部からなる医療系複合大学となりました。今年リハビリテーション学部から58名の第1期生が卒業しました。現在、新入生の皆さんを加え学生総数は1,681名となり、医学部・看護学部は枚方キャンパスで、リハビリテーション学部は牧野キャンパスで勉学

に励むことになりま

す。
本学は4つの附属医療機関と2つの健診施設をもち、一日4,000人以上の患者さんを受け入れ、地域の中核として健康・医療・介護・福祉にわたる地域医療を担うとともに、附属病院は特定機能病



式辞を述べる木梨学長

院として高度先進医療を実施しています。優れた医療人を育成するために、「質の高い教育」と「特色のある先端研究」を展開することに力をいれ、患者さんに寄り添う心と、より良い治療を追求する探究心を持った医療人を育成することが大学の重要なミッションです。関西医科大学は大学基準協会の認証評価を受け、医学部は認証評価を受けたカリキュラムをもとに、早期から臨床現場を体験する白衣の日実習、先端研究を学ぶ配属実習、6学年では国外臨床実習を取り入れています。看護・リハビリテーション学部では実践的な知識と技術に重点をおき、多くの学外実習、シミュレーション教育に力を入れています。看護学部は昨年度、高い認証評価を受け、リハビリテーション学部では昨年度、初めて卒業生を出し、ともに100%の国家試験合格をはたしました。大学院については、医学研究科において、通常の4年課程博士のほか、令和2年度に国際大学院が開設されアジア・アフリカ・ヨーロッパの医師留学生が博士研究に従事し、令和4年度に建てられた関医タワー内の寮で生活しています。また、同タワー内に国際化推進センターが設置され、留学生のサポートや国際連携を推進しています。今年度



からイタリア・トリノ工科大学とのダブルディグリーコースが始まり、医工連携研究が開始されました。看護学研究科では専門看護師の受験資格が取得できる高度実践看護師コースなど3つのコースがあり、リハビリテーション学部は、今年度から生涯健康科学研究科修士課程が始まりました。本学には2つの研究所があり、附属生命医学研究所では先端の機器を完備した共同施設があり基礎・臨床研究を支援する体制を整え、さらに令和4年度には第5のがん治療と呼ばれる光免疫療法の研究を推進する国内唯一の研究所、附属光免疫医学研究所を設けています。本学はこれらの活動をとおして、世界に開かれた大学、オンリーワンの特色ある研究を行う大学を目指しています。大学院に入学された皆さんは、研究者をめざしてこれから研究活動が始まります。医療が抱える様々な課題に対して、失敗をおそれず、新たな発見や技術開発を通じて課題解決に挑んでください。研究では小さな工夫や発見の積みかさねが革新的な治療を切り開くきっかけになります。常に探究心を持って関西医大から世界初の研究成果を発信してください。

知識と技能および職業倫理は人を大きく成長させる力を持っています。大学という学びの場でこれらを身につけていくことによって皆さん一人ひとりの能力と個性、人格が医療人という目標に向かって成長を始めます。医学・看護・リハビリテーションの3学部とも最終的には国家試験に合格して初めて職業人として自立でき、社会に貢献することができます。医療人にとって正確な知識と技能は何物にも代えがたく、日々学ぶ姿勢を身につけ、謙虚な心で人に接し、自分に足りないものを気づかせてくれた人に敬意をはらってそれらを貪欲に吸収してください。謙虚さと感謝の気持ちから、あなたの周りに良い人間関係が生まれてきます。そして、お互いの違いを尊重しながら切磋琢磨し、優れた医療人として成し遂げたいことはなにか、常に自分の内なる声に耳をかたむけ、目標に向かって進んでください。

本学の建学の精神は、「慈仁心鏡」ですが、学歌のぞみの3番の歌詞に「慈仁を心の鏡となして」とあり、そこに由来しています。鏡とは一般に模範・規範の例えであり、また、物を映し出す本質から、めぐみの心を自らに映し出す・見習うという意味がでできます。慈しみ・めぐみ、思いやりといった「奉仕の精神」「利他の精神」が医人として成長するうえで基本の心構えであることを



新入生(学部)代表

うたっています。現代の医療は、ゲノム医学、医工学、高度なロボット技術とAIの導入によって大きな変革期に入ってきました。デジタル化された生命理解から診断・治療の自動化が追求されていくでしょう。しかし、その背後には数に置き換えることができない患者さんと家族の苦しみと喜怒哀楽があることを忘れてはなりません。患者さんの気持ちに寄り添い、患者さんに安心と希望・のぞみをあたえることは、医学・看護・リハビリテーションの各医療人が持つべき重要な資質であり、AIに置き換えることができない「慈仁心鏡」に通じる精神です。

今一度、学歌の歌詞をご覧ください。この歌詞は2期生の宮前澄子さんが、本科2年生の時に作詞されたそうです。ここ枚方市を含む一帯はかつて交野ヶ原と呼ばれ、金剛生駒山脈に連なる交野三山が交野ヶ原の背景にあり、いにしへの貴族が鷹狩りや桜狩りをした自然豊かな地です。今も豊かな森と水が国定公園として残され、今の季節ではカタクリや水芭蕉をみることができます。また、伊勢物語の「渚の院」の章には、かの有名な桜の和歌が歌われた「渚の岡」が本学周辺にあり、地名に残されています。

人の成長の記憶は風土とともに刻まれていきます。関西医科大学こそが、入学した皆さんにとって医療人としての原点であり、由緒ある桜の花が咲き誇る中、学歌とともに祝えることを心から誇りに思うと同時に、皆さんの若い力がこの地で躍動することを期待いたします。未来で待つ患者さんのために、日々勉学に励み、深く、幅広い知識と正確な技能を身につけ、「慈仁心鏡」の精神を体現する医療人に成長してください。

以上、私の式辞といたします。本日は誠におめでとうございます。

（仮称）関西医科大学附属病院別館増築工事起工式

2月20日(木)10時30分から、枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において「（仮称）関西医科大学附属病院別館増築工事起工式」が挙行されました。山下敏夫理事長、木梨達雄学長をはじめとする学内関係者、設計会社の株式会社日本設計岡本尚俊取締役副社長執行役員、施工会社の清水建設株式会社山下浩一専務執行役員関西支店長ほか工事関係者など35名が列席。厳粛な雰囲気の中、神職の祝詞奏上に続いて、山下理事長ほか代表者による地鎮之儀が行われました。

神事終了後の11時15分からは隣接会場で直会が行われ、山下理事長、岡本副社長、山下支店長の挨拶に続き、谷川昇病院長代理の乾杯発声により開宴。清水建設株式会社関西医科大学附属病院別館建設所松永龍彦所長による手締めにて散会となりました。

別館は附属病院本館に隣接し、1～4階を渡り廊下で接続。新規の病床や手術室、内視鏡室の整備、感染症対応病棟や画像診断装置の増設などの診療機能拡大によ

り、患者さんの利便性を改善します。また、当直室や診療教授室などの医師の居室も整備し、就業環境向上を図ります。

建築概要

建築面積：2,716㎡ 延床面積：17,146㎡

構造：鉄骨造(RCST造) 階数：地下1階、地上7階

完成予定：令和9年9月



鋤入を行う山下理事長

就任挨拶

医学部行動医学教室主任教授 近藤 恵



令和7年4月1日付で関西医科大学医学部行動医学教室(旧心理学教室)主任教授を拝命いたしました。私は平成19年に京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程を修了後、死生心理学、医療倫理学を専門とし、研究、臨床と併せ、医療従事者を目指す学生の教育に携わってきました。研究面では、理論と実践の往還を重視し、エンド・オブ・ライフケアにおける心理学的支援をテーマに、学童期から高齢期までを対象とし、ライフサイクルの中で向き合う死の問題・課題と心理ケアについて研究を行って参りました。現代社会において、死はこれまでにないほど私たちにとって身近なものとなっています。多様な死と共に生きる現代において、ライフサイクルの段階に則して、その問題・課題を抽出、整理し個々の人生の充実(Quality of Life : QOL)に貢献できるよう尽力する所存です。

教育面では、行動医学、心理学の専門知識に加え、医療従事者に求められる深い洞察力と豊かな人間性を育むことに注力して参りました。教養の幅広い知識だけではなく、学生の人間形成を支援する

ことも教員の重要な役割であると考えています。

臨床に根差した理論構築や教育をもとに、関西医科大学の更なる発展に寄与して参ります。今後ともご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

略歴

平成12年3月	聖心女子大学文学部教育学科心理学専攻 卒業
平成15年3月	京都大学大学院人間・環境学研究科人間・環境学専攻修士課程 修了
平成16年9月	La Trobe University Clinical Palliative Care Unit 及び Monash Medical Centre palliative care/hospice unit. Monash Health McCulloch House 留学
平成19年3月	京都大学大学院人間・環境学研究科共生人間学専攻博士後期課程 修了
平成20年4月	京都大学こころの未来研究センター 研究員
平成23年4月	天理よろづ相談所病院 天理医療大学設置準備室 教員
平成24年4月	天理医療大学医療学部 講師
平成28年10月	大阪医科大学中山国際医学医療交流センター 講師
令和5年6月	大阪医科薬科大学国際交流センター 准教授
令和6年4月	Leipzig University Research Centre Global Dynamics 研究員
令和7年4月	関西医科大学医学部行動医学教室 主任教授



医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座主任教授 八木 正夫



令和7年4月1日付で、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座の主任教授を拝命いたしました。選考に関わって下さった委員の皆様をはじめ、ご推挙いただきました方々にこの場をお借りして御礼申し上げます。耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座(平成26年までは耳鼻咽喉科学講座)は昭和7年に開講し、初代教授山下憲治先生から数えて、私が9代目となります。この非常に長い歴史を持つ講座で築き上げられてきた伝統を引き継ぎ、発展させるという重責を担うことになります。また本講座の発展のみでなく、本学の教育機関としての成熟、新しい医療技術の研究・開発、高度な医療の提供に寄与することを目指して精進いたします。

私は兵庫県姫路市出身で、関西医科大学入学後、在学中は当時の薬理学教室稲垣千代子教授など素晴らしい先生方との出会いに恵まれました。平成7年に卒業後、本講座の当時の山下敏夫教授のもと耳鼻咽喉科医としてのスタートを切りました。入局から2年後にはミシガン大学クレスゲ聴覚研究所に約2年半の留学を経験し、ウイルスベクターを用いた内耳遺伝子導入による感音難聴治療の研究に従事しました。帰国後河内総合病院(東大阪市)、武田総合病院(京都市)などで研鑽を積むことで耳鼻咽喉科・頭頸部外科疾患のほぼすべての領域の診療で幅広い経験を持つことができました。帰向後は、特に唾液腺疾患、甲状腺疾患などの頭頸部領域を専門としてきました。これまで附属病院での唾液腺、甲状腺手術における神経モニタリングの導入など安全かつ正確な頭頸部手術の確立に力を注ぎ、4年前からは外視鏡ORBEYEを頭頸部手術に導入し、さらなる

安全性と正確性の向上に寄与する成果を上げてきました。今後は手術教育への導入やAIを活用した視覚支援技術の開発を推進していくとともに、ロボット手術など新しい技術も取り入れていく所存です。また本学には光免疫治療センターおよび研究拠点としての附属光免疫疫学研究所がありますので、光免疫治療の唯一の保険適応である頭頸部痛への光免疫治療にも力を注いでいく所存です。耳鼻咽喉科・頭頸部外科は嚥下、平衡機能、聴覚障害など高齢化する患者さんのニーズが高い領域ですので、人生の最終段階でも幸せに暮らすための最適な診断治療を提供したいと考えております。そのために嚥下評価デバイスの開発、平衡機能検査の充実、補聴器装用の推進など北河内地域から全国に発信できるような診療および技術を発信させたいと思います。これらを達成するためには他科、地域医療施設との連携、スタッフの増員などが不可欠で、地道な努力が必要と存じます。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願いいたします。

略歴

平成7年3月	関西医科大学医学部卒業
平成7年5月	関西医科大学耳鼻咽喉科入局
平成9年4月	米国ミシガン大学クレスゲ聴覚研究所 Research Fellow
平成11年10月	関西医科大学耳鼻咽喉科 研究員
平成12年11月	河内総合病院耳鼻咽喉科 副院長
平成16年1月	関西医科大学耳鼻咽喉科 助手
平成19年4月	医仁会武田総合病院耳鼻咽喉科 医長
平成24年9月	同病院耳鼻咽喉科 部長
平成25年4月	関西医科大学耳鼻咽喉科頭頸部外科 講師
平成31年1月	関西医科大学耳鼻咽喉科頭頸部外科 准教授
令和7年4月	関西医科大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 主任教授

医学部麻酔科学講座理事長特命教授 萩平 哲



令和7年4月に理事長特命教授を拝命しました萩平です。私はこれまで麻酔科学講座の診療教授として8年間勤務してきました。呼吸器外科麻酔部門の診療教授ということで、呼吸器外科手術を中心に麻酔を担当しながら学生や専攻医の指導を行って来ました。今後も呼吸器外科手術の麻酔を中心に診療に携わりながら専攻医や学生の指導を行って行く所存です。

また、長年続けて来た脳波モニタリングに基づく鎮静および鎮痛の評価および調節に関する研究もさらに発展させて行きたいと考えています。特に鎮痛の評価および調節に関しては既に開発しているシリンジポンプをコントロールするシステムと組み合わせて各患者さんに適したオピオイドの投与が行えるようなシステムを構築することを目標としています。

もうしばらくは、臨床、教育、研究に精進したいと考えています。

略歴

昭和60年3月	大阪大学医学部卒業
昭和60年7月	大阪大学医学部附属病院麻酔科 医員(研修医)
昭和61年4月	大阪大学大学院医学系研究科博士課程入学(外科系麻酔学)
平成2年4月	大阪大学医学部 研究生(麻酔科)
平成2年6月	大阪大学医学部附属病院麻酔科 医員(シニア非常勤)
平成2年7月	関西労災病院麻酔科 医長
平成4年7月	大阪大学医学部 助手(麻酔科)
平成10年7月	大阪府立羽曳野病院麻酔科 医長、手術室長
平成14年4月	大阪府立羽曳野病院麻酔科 部長
平成15年7月	大阪大学大学院医学系研究科 助手(麻酔科学)
平成17年11月	大阪大学医学部附属病院 講師(集中治療部)
平成26年4月	大阪大学大学院医学系研究科 准教授、病院教授(麻酔・集中治療医学)
平成28年3月	大阪府立急性期・総合医療センター麻酔科 部長、中央手術部長
平成28年3月	大阪大学大学院医学系研究科招へい 教授(麻酔・集中治療医学)
平成29年4月	関西医科大学麻酔科学講座呼吸器外科麻酔担当診療教授
令和7年4月	関西医科大学附属病院麻酔科 理事長特命教授

附属病院スポーツ医学センターセンター教授 山門 浩太郎



令和7年4月1日付で、関西医科大学附属病院スポーツ医学センターのセンター教授を拝命いたしました。これまで、肩関節外科を中心に臨床医として診療と研究活動をおこないつつ手術指導や資格認定に従事してきました。平成26年に本邦へ導入されたリパース型人工肩関節置換術の資格認定制度においては、日本整形外科学会ガイドラインの改訂に参画したのち、昨年まで日本肩関節学会リパース型人工肩関節運用委員会委員長を務めました。その他、関節鏡視下手術のインストラクターとして国内外において指導に従事してまいりました。今後は、関西医科大学に新規設立されたスポーツ医学センターの一員として、関西圏のみならず、アジアを起点とした世界レベルの医療と研究を発信する事業を発展させていきたいと考えております。スポーツの語源は、「ある物を、他の場所に移す」というラテン語の動詞、「deportare」とされています。すなわち「心の重い嫌な状態

を、そうでない状態に移す」ことを意味していたようです。障害予防あるいはパフォーマンス向上を通じて「爽快で健康な状態」を目指し、基礎的研究から臨床の応用まで幅広く貢献できればと考えております。ご指導ご鞭撻のほどをお願い申し上げます。

略歴

平成6年	金沢大学医学部卒業
	金沢大学附属病院整形外科 研修医
平成7年	富山県立中央病院 研修医
平成8年	富山県済生会高岡病院整形外科 医員
平成9年	石川県済生会金沢病院整形外科 医員
平成12年	河北中央病院整形外科 医長
平成14年	Advanced Orthopaedic Centers(米国)、クリニカルフェロー
平成15年	金沢大学附属病院整形外科 医員
平成15年	石川県済生会金沢病院整形外科 医長
平成17年	福井総合病院 医長
平成24年	福井総合病院スポーツ整形外科 部長
令和7年	関西医科大学附属病院スポーツ医学センター センター教授



看護学部老年看護学領域教授 伊東 美緒



令和7年4月1日付で関西医科大学看護学部老年看護学領域教授を拝命いたしました。

千葉大学看護学部を卒業後、成田赤十字病院、心臓血管研究所附属病院に勤務した後に、千葉大学大学院看護学研究科博士前期課程に進学しました。その際、訪問看護や療養型病院の非常勤看護師として勤務し、医療による高齢者の生活への影響に関心を持ちました。修士課程修了後、東京都老人総合研究所(現東京都健康長寿医療センター)に勤務し、20年以上、日本全国の病院、介護施設、在宅において、認知症の人とケアする人の関係性について観察調査を行ってきました。

認知症の人が不穏状態に陥ったとき、「認知症」のせいになされてしまいますが、実は身近な人との関係性や、身近な人のかかわり方によって認知症症状の現れ方は変わります。ケアする人が何に気づけばよいのか、どのように対応すればよいのかを考えながら観察調査を行った結果を“不同意メッセージへの気づき：介護職員とのかかわりの中で出現する認知症の行動・心理症状の回避にむけたケア。伊東美緒, 宮本真巳, 高橋龍太郎. 老年看護学, 15 (1), 5-12,

2011”にまとめ、老年看護学会で研究論文奨励賞を受賞しました。

また、ユマニチュード®というフランス発症のケア技法にも日本導入の当初から関わっており、ユマニチュードの基本技術である視線を評価するために、アイトラッキングシステムを用いた視線分析なども行っています。

今後も、認知症の非薬物的アプローチとしてのコミュニケーションの研究に取り組んでいきたいと思えます。何卒よろしくお願いたします。

略歴

平成7年3月	千葉大学看護学部卒業
平成7年4月	成田赤十字病院 看護師
平成8年4月	心臓血管研究所附属病院 看護師
平成11年3月	千葉大学大学院博士前期課程修了
平成11年7月	東京都老人総合研究所(現東京都健康長寿医療センター) 非常勤研究員
平成19年4月	東京都老人総合研究所(現東京都健康長寿医療センター) 常勤研究員
平成20年3月	東京医科大学大学院保健学研究科博士後期課程修了
平成31年7月	群馬大学大学院保健学研究科老年看護学 准教授
令和4年10月	群馬大学大学院保健学研究科成人老年看護学 教授
令和7年4月	関西医科大学看護学部老年看護学領域 教授

看護学部がん看護学領域教授 白井 由紀



令和7年4月1日付で関西医科大学看護学部がん看護学領域教授を拝命いたしました。私は、平成8年に東京医科歯科大学を卒業後、同大学病院にて看護師として勤務しました。その後、平成15年に東京大学大学院(緩和ケア看護学)博士前期課程、平成19年に博士後期課程を修了しました。平成19年より、国立がんセンター東病院精神腫瘍学開発部にてリサーチ・レジデントとして勤務し、その後、東京大学大学院(平成22年~24年)、あそかビハーラ病院(平成26年~29年)で教育・研究に携わり、平成29年から京都大学大学院にて准教授を務めてまいりました。

これまでに、がん看護、サイコオンコロジー領域の研究に取り組んでまいりました。特に、がん医療における患者-医療者コミュニケーションを専門としております。医療者とのコミュニケーションは患者さんの治療選択やQOLに大きな影響を与えます。患者さんの価値観を尊重し、最善をともに探求する姿勢が医療者には求められます。今後も、これまでの経験を基盤に、がん看護やサイコオンコロジー領域における教育・研究の発展に貢献してまいります。ま

た、知識や技術だけでなく、患者さんと誠実に向き合い、信頼関係を築くためのコミュニケーションの力を学生さんが育んでいけるよう尽力する所存です。学内外の皆さまと連携し、患者さんと医療者がより良い関係を築ける環境づくりに取り組んでまいります。今後ともご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願申し上げます。

略歴

平成8年3月	東京医科歯科大学医学部保健衛生学科看護学専攻卒業
平成8年4月	東京医科歯科大学医学部附属病院 看護師(血液内科・膠原病内科)
平成15年3月	東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻(緩和ケア看護学)博士前期課程修了
平成19年3月	東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻(緩和ケア看護学)博士後期課程修了
平成19年4月	国立がんセンター東病院 精神腫瘍学開発部リサーチ・レジデント
平成22年4月	東京大学大学院医学系研究科がんプロフェッショナル養成プラン 特任助教
平成26年5月	あそかビハーラ病院 看護師(非常勤)
平成27年4月	あそかビハーラ病院 看護師/研究主任
平成29年4月	京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻先端中核看護科学講座 緩和ケア看護学分野 准教授
令和7年4月	関西医科大学看護学部がん看護学領域 教授

リハビリテーション学部理学療法学科科長 市橋 則明



令和7年4月1日付で、関西医科大学リハビリテーション学部理学療法学科の学科長を拝命いたしました。私は京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻先端リハビリテーションコース先端理学療法学講座運動機能開発学分野の教授として約20年間大学院の教育研究を中心に関わってまいりました。私の研究室では、ヒト(若年者、高齢者、患者、スポーツ選手)を対象に光学式・磁気式モーションキャプチャシステムや筋電図、超音波画像装置、MRIなど様々な計測機器を使用し、非侵襲的に測定・分析することで、リハビリテーションや理学療法の発展に寄与することを目的に研究してきました。その間64名の修士の学生、24名の博士の学生の指導教授として研究指導にあたり、大学院修了生のうち22名(教授3名、准教授・講師10名、助教9名)がアカデミアで活躍しています。令和7年4月に関西医科大学リハビリテーション

学部に生涯健康科学研究科修士課程が設置され大学院教育が始まりました。生涯健康科学研究科の大学院修了生がアカデミアで活躍できるように努めていく所存です。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

略歴

昭和60年	神戸大学医療技術短期大学部理学療法学科卒業
昭和60年	三菱神戸病院 理学療法士
昭和63年	神戸大学医療技術短期大学部理学療法学科 助手
平成6年	京都大学医療技術短期大学部理学療法学科 助教授
平成16年	藤田保健衛生大学博士(医学)
平成17年	京都大学医学部保健学科学理学療法学専攻 教授
平成19年	京都大学大学院 医学研究科 人間健康科学系専攻先端リハビリテーション科学コース、先端理学療法学講座 運動機能開発学分野 臨床バイオメカニクス研究室 教授
令和7年	関西医科大学リハビリテーション学部理学療法学科 教授



退任挨拶

医学部心理学教室前教授 西垣 悦代



平成21年9月に和歌山県立医科大学医学部の准教授から、関西医科大学医学部心理学教室の二代目教授に就任し、16年が過ぎました。在職中のご厚情を心より感謝申し上げます。着任当初の2年間は、本学卒業生の先生方の心のふるさとでもある牧野キャンパスの趣ある校舎で過ごし、関西医科大学の歴史を肌で感じることができました。枚方キャンパス移転後は大学の発展と共に担当科目も増え、医学生のレジリエンスを高めるために心理学を役立てたいと、講義、実習に工夫を凝らし、医学教育学会など

でも発表させていただきました。看護学部、リハビリテーション学部の授業も担当させていただきましたので、医療系総合大学としての本学の各学部の学生さんの様子を身近に感じることができ、ありがたかったです。研究面では在職中科研費に5回、民間助成金には2度採択され、ささやかながら充実した研究生生活を送ることもできました。これも先生方、事務職員の皆様のサポートのおかげです。ありがとうございました。今後は他大学の心理学部でコーチング心理学他、自身の専門科目を教えることになりました。関西医科大学の益々のご発展と皆さまのご健康を心より祈念いたしております。

医学部内科学第二講座前教授 塩島 一郎



平成24年4月に着任しましたので13年間お世話になったこととなります。私が着任した時点で学舎はまだ建築中で、学生の講義や入試の面接は滝井でおこなっていました。枚方はその後学舎ができて、附属病院別館が現在建築中です。香里病院は私が来る2年前に開院したところで、くずは病院の開院は平成30年でした。着任時には診療教授など含め49名の教授がおられましたが、現在は104名の教授がおられます。すなわち、私がお世話になった13年間は、関西医科大学が人材の面でもインフラの面でも

非常に発展した時期で、そのような時に在籍させていただくことは大変幸運であったと感じています。

私が専門とする循環器内科の分野でも、この13年間に心不全に対する薬物治療や弁膜症に対するカテーテル治療など大きな進歩がありました。カテーテル治療やデバイス治療は今後さらに低侵襲化・小型化が進むでしょうし、現在がんの分野でひろくおこなわれているゲノム医療が今後は循環器疾患でも一般的になるかもしれません。次世代の先生がたに期待しています。

13年間多くの方に大変お世話になりましたことを感謝するとともに、関西医科大学のますますの発展をお祈りいたします。

医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座前教授 岩井 大



このたび令和7年3月末日をもちまして関西医科大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座主任教授を退任いたしました。

関西医科大学を卒業したのち、当時本学の本院であった滝井病院(現 総合医療センター)にて勤務を始め、病院教授や甲状腺外科センター長に就任しました。平成28年に大学の主任教授を拝命したのちは、国際交流センター副センター長、栄養管理部長、光免疫療法センター長などに就任させていただきました。また当教室から、歯科・口腔外科・口腔ケアセンター長、臨床検査医学センター長、アレルギーセンター長を輩出できたことは大きな喜びでした。顧問として応援させて頂いたサッカー部が西医体で優勝し、柔道部もコロナ禍のなかよく活動を続けてくれました。学外

では、「日本口腔・咽頭科学会」の理事長として、扁桃炎・閉塞性睡眠時無呼吸・味覚異常・舌下免疫・腫瘍免疫・免疫老化・唾液腺腫瘍・上咽頭免疫・嚥下障害などの研究を推進し、日本の研究力強化と関西医科大学のブランド力向上に努めました。

昨年の令和6年に桜花の枚方市総合文化芸術センターにて3日間にわたり、「日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会」を開催したところ盛況となり、この学会始まって以来の会員参加者数となりましたことは、運営に尽力した教室員にとって大きな自信と誇りになりました。

このたび、大過なく教授職を全うさせて頂き、支えてくださいました皆様のおかげと深く感謝申し上げます。今後の関西医科大学とご一同様の一層のご発展を祈念いたします。

医学部内科学第二講座前診療教授 豊田 長興



平成26年4月に糖尿病科診療教授を拝命し、令和7年3月に退任させて頂くことになりました。皆様方にはひとかたならぬご厚誼にあずかり、感謝申し上げます。

任期を振り返りますと、診療に関しましては、地域の医療機関の皆様より、多くの患者さんをご紹介頂き、診療に従事してまいりました。枚方市及び枚方市医師会と一緒に糖尿病性腎症重症化予防にも努めてまいりました。教育では、学生講義、クリニカルクラークシップ、研修医の指導をととして内分泌代謝疾患に興味をもってもらうことに努めてまいりました。幸い、私達のグループに多くの研修医が入局してくれました。研究では、大学院生と一緒に甲状腺ホルモン代謝酵素に関する研究を主に行ってまい

りました。本学iPS・幹細胞再生医学講座及び京都大学iPS細胞研究所との共同研究にて、ヒトiPS細胞から膵β細胞への分化に甲状腺ホルモン代謝酵素が関与することを明らかにいたしました。糖尿病学会近畿地方会、甲状腺学会学術集会、内分泌学会近畿支部学術集会をスタッフ一丸となって主催させて頂くことができました。学会主催をととして、関西医科大学糖尿病内分泌グループの存在をアピールできたのではないかと自負いたしております。

私は、4月以降、関西医科大学総合医療センターで糖尿病診療を継続してまいります。引き続き、北河内地区の糖尿病診療の拠点としての本学の責務を全うしていく所存です。

今後とも変わらぬご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

看護学部がん看護学領域前教授 青木 早苗



この度、私は平成30年4月に新設された看護学部・看護学研究科に着任し、令和7年3月をもちまして退職させて頂くことになりました。7年間にわたり、皆様と共に教育・研究に携わることができましたことを心から感謝申し上げます。

高知の田舎から都会に出てきて、環境適応できるか不安な時期もありましたが、皆様の温かいご支援のもと、関西医科大学では多くの経験をさせていただきました。特にがん看護学領域の新設にあたり、がん薬物療法、放射線療法を専門とする看護師育成の教育カリキュラムを作成させていただいたことは、貴重な経験でした。また、そのカリキュラムをもとに大学院で学生や

先生方とともに学んだ3年間は、振り返ると様々な感情が溢れてきますが、私にとって大きな財産となりました。カリキュラムの評価まで至らなかったことは残念ではありますが、関西医科大学が看護学領域の基盤づくりができたのではないかと考えております。

退任後は、これまでの経験を活かし、さらにはがん看護学の発展と地元のがん医療に貢献できるように努めてまいります。お世話になりました皆様とのご縁はこれからも大切にしていきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

最後に、改めて私をいつも支えてくださいました皆様に感謝申し上げます。皆様のご健康とご多幸、そして関西医科大学のますますのご発展を心よりお祈りしております。

令和7年度入職式

4月1日(火)10時から枚方市総合文化芸術センター関西医大大ホールにおいて「令和7年度入職式」が挙行され、新入職者412名が出席しました。この日は山下敏夫理事長、木梨達雄学長をはじめ、澤田敏副理事長、神崎秀陽常務理事、附属病院谷川昇病院長代理、総合医療センター杉浦哲朗病院長、香里病院岡崎和一病院長、くずは病院高山康夫病院長らが臨席。

訓辞に立った理事長は、まもなく創立100周年を迎える本学および北河内地区の医療と健康を支える附属医療機関の歴史や現状を紹介。光免疫医学研究所の開設などを経て発展を続ける研究分野や、新たな大学との協定締結などによる国際化の進展に触れつつ、本学の将来展望を語り、本学が進化し続けるために、一人一人が関西医科大学の一員として誇りをもち、夢の実現に協力してほしいと述べました。

続いて、新入職員を代表して登壇した附属病院スポーツ医学センター山門浩太郎センター教授に、山下理事長から辞令が手渡されました。その後、山門センター教授が答辞を述べて入職式は閉式となりました。



山下理事長による訓辞

令和6年度医学部卒業式

医

3月5日(水) 13時から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において「第71回医学部卒業式」が執り行われ、卒業生134名が式に臨みました。卒業生たちは木梨達雄学長の式辞、医学部金子一成学部長の祝辞を傾聴し、卒業生総代の田中綺華さんが、教職員や在学生、保護者に向けて感謝の言葉を述べ、将来良医になるという目標を目指して邁進することを誓いました。

学長式辞

学長 木梨 達雄

本学のシンボルである梅の花が咲き、春めく香りに心が弾むなか、本日ここに卒業式を迎えられた93期生134名の皆さんに、本学の教職員を代表して、心よりお祝いを申し上げます。ご卒業おめでとうございます。皆さんがコロナ禍で大学や社会が混乱した状態で学業が始まった苦しさを乗り越え、無事卒業に至ったことをうれしく思います。ご家族をはじめ皆さんを支えてこられた方々にも、感謝を込めてお祝いを申し上げたいと思います。また、ご多忙の中、本式典にご臨席いただきましたご来賓の皆様には厚く御礼申し上げます。

振り返って皆さんが入学したときに持っていた気持ちはどんなものだったでしょうか。関西医科大学という新鮮な学びの場で、新しい友人をつくり、仲間とともに医師を目指して勉学やクラブ活動などに励む、そのような大学生活に対する期待や夢に胸を膨らませていたことでしょうか。我々も皆さんの期待に応えるべく、講義や実習のカリキュラムや指導法に心を砕き、講義室や実習室、自習室の整備、IT機器を配備し、メンターによるサポートを充実させて、パンデミックにも負けない学びの環境や支援を向上させてきました。しかし、医学の知識を積み重ね、実践を通して学んでいく過程は皆さんの想像以上に大変だったのではないのでしょうか。悔しい思いやふがない自分に涙し、挫折感を味わったこともあったでしょう。我々教員もその思いを受け止め、ともに悩んできました。そして、多くの試練を乗り越えて、この場に集い、無事に卒業し、社会へと羽ばたいていくとき、そのような苦しみも自分が成長していく過程に必要な事であったと納得できるのではないのでしょうか。人生の満足は素晴らしい成果を出したかどうかだけにあるのではなく、このプロセスの積み重ねと成長の実感そのものがあり、そのなかで本学で出会い生涯の友になるであろう友人たちとの切磋琢磨や皆さんの成長を支えた教員との交流、これらは、さらに成長していく皆さんにとって貴重なものです。

我々教員は、この場に集っておられる皆さんの成長を

わがことのように喜びながら、皆さんの将来に思いを馳せます。

現在、日本の医療は大きな変革期にあります。高齢化と人口減少によって医師の地域・診療科の偏在化がすすみ、医師の過重労働に対する対策の必要性、医療を支える保険制度や病院経営の悪化が指摘されるなか、国民すべてに質の高い医療を提供することの困難さが浮き彫りになってきました。このような背景の中、研修にすすみ、総合医や特定の診療科の専門医を取得し、地域医療に進む人、あるいは高度医療の実践を目指す人、高度医療につながる研究の道に進む人、あるいは、医療行政やビジネスに転じて社会貢献をめざす人もいます。どの道を進むにしろ、変革期にある社会は多くの矛盾に直面しており、その中で医療人は安心して暮らすことができる社会の基盤として国民の負託に応えなくてはなりません。

本学のミッションは建学の精神「慈仁心鏡」慈しみ、めぐみ、愛を心の規範として、「自由・自律・自学」の学風のもと、患者さんに寄り添う心と探求心を持った良医を育てることです。分野別認証に適合した教育カリキュラムのもと、基礎医学から先端医療まできめ細やかな医学教育を進めてきました。もとより6年間の学修は医療人としての出発点ですが、卒業後も、不断に学ぶ姿勢が重要であり、これを実践できる人がさらに成長を続けることができます。多くの道を前に期待が膨らむと同時に、自分が進むべき道はどれだろうと不安に思っている人も少なくないと思います。いま自分の生き方や人生の目的地を決めていたとしても、思い通りに人生が進むことはまずありません。楽な道の先には成長がないことも皆さんはこの6年間で学んだと思います。研修の場で、



式辞を述べる木梨学長

自分の心に響くものを大切にしながら、自分の適性を考え、自から一步を踏み出すことによって、自分らしく成長するきっかけをつかんでください。

現代の医療は日進月歩で発展しており、次々と新たな治療法や診断法が開発されています。ゲノム情報を基にした個別化医療、再生医療、免疫医薬、がん新薬の開発、本学が推進している光免疫療法など、難病に対する新たな治療法が発展しています。低侵襲の手術手技、先進的なロボット手術も普及が加速しています。加えて医工学、データサイエンス、人工知能の活用が医療の分野でますます重要になってきました。本学および附属医療機関にはこれらの分野で優秀な教員、医師が集い、先端医療を開発・提供する環境や大学院で学ぶ機会を整えてきました。医学・医療の発展の裏側ではたくさんの試行錯誤とそれを支えた人たちの熱意が隠れています。良い師を求

め、その「熱意」や「問う力」、「探求心」にも触れてください。それが触媒となり、今度はあなたのなかに、自分が貢献できる場所が生まれ、さらに成長するきっかけとなります。

医師は患者さんの求めにいついかなる時にも応じ、患者さんの気持ちに寄り添い、ベストを尽くし、患者さんに安心と希望をあたえなければなりません。これは医師が持つべき重要な資質であり、「慈仁心鏡」に通じる精神です。そして標準の治療を施して事足りりとするのではなく、治らぬ病気なら、直す方法を考えるのが医学の原点であることを忘れずに、それぞれの道でより良い医療を目指して頑張ってください。

本学での学びを糧に国内外を問わず、広く活躍する医療人として大きく成長することを願ってやみません。

以上、私の式辞といたします。

医学部長祝辞

医学部長 金子 一成

93期生の皆さん、卒業おめでとうございます。本日、晴れて関西医科大学医学部を卒業し、医師としての新たな一步を踏み出す皆さんに、心からお祝い申し上げます。皆さん93期生は、学生時代の約半分の歳月をコロナ禍という未曾有の行動制限の中で過ごし、授業や実習のみならず、クラブ活動などでも不自由を余儀なくされました。そのような試練を乗り越え、厳しい進級試験や卒業試験にも合格し、今日という日を迎えた皆さんの忍耐と努力に、心から敬意を表します。そして同時に皆さんを支えられたご家族や友人の方々にも、感謝とお祝いを申し上げます。

医師という職業は、病に苦しむ人々に寄り添い、時には命に関わる重責を担わなければなりません。その分、人々の健康と幸福に貢献できる、やりがいのある仕事です。本学の卒業生として、「慈仁心鏡」の4文字を胸に、良医になって欲しいと思います。そのためには最初が大切です。医師になってからの当初数年間の過ごし方が、その後の医師としての診療スタイルを決めると言っても過言ではありません。したがって臨床研修医時代、そして専攻医時代は、すべてのことを貪欲に吸入して欲しいと思います。

また医学は日進月歩です。皆さんがこれから向き合う医療現場は、科学技術の発展とともに常に変化しています。AIやロボティクス、遺伝子治療といった最先端の技術が取り入れられ、医療の形は大きく変わりつつあり

ますが、どれだけ技術が進化しても、患者さんの心に寄り添い、苦しみや不安を和らげる存在としての医師の役割は変わることはありません。患者さんと信頼関係を築き、共に病と闘うパートナーとして、患者さんの心身両面を支えられる医師になってください。加えて医療はチームで成り立っていることも忘れないでください。他職種のスタッフと連携し、共に学び、成長していくことが大切です。仲間との絆を大切に、支え合ってください。

最後に、私の医師としての処世訓を皆さんに紹介します。江戸時代末期に長崎で西洋医学校を造り多くの日本人医師を育てたオランダ人医師、ポンペの言葉です。ポンペは、「医師は自らの天職をよく承知していなければならない。ひとたびこの職務を選んだ以上、もはや医師は自分自身のものではなく、病める人のものである。もしそれを好まぬなら、他の職業を選ぶがよい」と述べています。

皆さんの未来が希望に満ち溢れ、実り多きものであることを心より祈っています。ご卒業、誠におめでとうござい



祝辞を述べる金子学部長

令和6年度看護学部・リハビリテーション学部卒業式

看
リ

3月19日(水) 13時から枚方市総合文化芸術センター関西医大大ホールにおいて「令和6年度看護学部・リハビリテーション学部卒業式」が執り行われ、看護学部卒業生89名、リハビリテーション学部卒業生58名が式に臨みました。木梨達雄学長の式辞の後、看護学部加藤令子学部長、リハビリテーション学部飯田寛和学部長から祝辞が述べられ、それぞれの進路に進む卒業生にエールが送られました。その後、卒業生総代のリハビリテーション学部作業療法学科中島希さんから感謝の言葉が述べられました。

学長式辞

学長 木梨 達雄

春分の日を明日に控え、寒の戻りでやや肌寒く感じられますが、すでに本学のシンボルである梅の花が咲き、春めく香りに心が弾む季節になりました。本日ここに卒業式を迎えられた看護学部、リハビリテーション学部の皆さんに、本学の教職員を代表して、心よりお祝いを申し上げます。ご卒業おめでとうございます。皆さんがコロナ禍で大学や社会が混乱した状態で学業が始まった苦しさを乗り越え、無事卒業に至ったことを誠にうれしく思います。ご家族をはじめ皆さんを支えてこられた方々にも、感謝を込めてお祝いを申し上げたいと思います。また、ご多忙の中、本式典にご臨席いただきましたご来賓の皆様には厚く御礼申し上げます。今回リハビリテーション学部から初の卒業生が誕生するのを機会に、看護学部と合同で卒業式を開催する運びとなり、我々教職員の喜びは一層大きいものになりました。

本学は、建学の精神「慈仁心鏡」慈しみ、めぐみ、愛を心の規範として、「自由・自律・自学」の学風のもと、患者さんに寄り添う心と探求心を持った医療人を育てることを目標としています。リハビリテーション学部は令和3年に本学の創立の地である牧野キャンパスに新学舎が建てられ、理学療法学科と作業療法学科が設置されました。今回、理学療法学科46名、作業療法学科12名、計58名の第1期生が誕生します。看護学部は平成30年に枚方キャンパスに設置され、附属看護専門学校を発展的に継承し、今回89名の第4期生が誕生します。皆さんの卒業は、単科医科大学であった関西医科大学が医学、看護、リハビリテーションの3つの学部をもつ医療系複合大学に着実に進化したことを本学の歴史にきざむものです。

振り返って皆さんが入学したときに抱いていた気持ちはどのようなものだったでしょうか。関西医科大学という新鮮な学びの場で、新しい友人をつくり、仲間とともに医療人を目指して勉学や課外活動などに励む、そのような大学生活に対する期待や夢に胸を膨らませていたことでしょうか。我々教職員は、皆さんの期待に応えるべく、認証に適合した教育カリキュラムのもと、豊富なシミュ

レーション機器による実践的トレーニング、充実した学外実習、IT機器を配備し、パンデミックにも負けない学びの環境をつくり教育を進めてきました。しかし、看護・リハビリテーションの知識を積み重ね、実践を通して学んでいく過程は皆さんの想像以上に大変だったのではないでしょ

うか。医療実践の場では、正しい理解に基づいた正確な技術と経験は何物にも代えがたく、患者さんの生死をも左右します。習得の過程では妥協を許されず、悔しい思いやふがない自分に涙し、挫折感を味わったこともあったでしょう。我々教員もその思いを受け止め、ともに悩んできました。楽な道の先には成長はありません。多くの試練を乗り越えて、この場に集い、無事に卒業し、社会へと羽ばたいていくとき、苦しみや挫折の経験が自分が成長していく過程で必要な事であったと納得できるのではないのでしょうか。人生のすばらしさは、成果を出したかどうかだけにあるのではなく、このプロセスの積み重ねと成長そのものにより、そのなかで本学で出会い、生涯の友になるであろう友人たちとの切磋琢磨や皆さんの成長を支えた教員との交流、これらは、さらに成長していく皆さんにとって貴重なものです。

卒業は、新たな人生の始まりであり、期待が膨らむと同時に、自分が進むべき道に不安をいだいている人も少なくないと思います。多くの先人たちも同様の気持ちで医療人生をスタートしてきました。これまでに学修したことに自信をもって、自ら一步を踏み出し、多くの経験と自己研鑽を積むことによって、自分らしい生き方やキャリアが開けていきます。

看護、リハビリテーションは、あらゆる年代の人々、あらゆる健康状態にある人々への実践がもとめられてお



式辞を述べる木梨学長

り、仕事の範囲はひろく責任は重大です。専門的な知識と技術をもって、医師と連携し、生命の危機的状況にある人、療養期の人、障害を持つ人を助けるなど、患者さんにもっとも身近にいるものとして、患者さんの速やかな回復と社会生活への復帰をサポートする役割が求められています。活躍の場は、病院ばかりではなく、診療所、訪問看護、学校、事業所、老人保健施設など広く社会での活躍が求められています。このような状況のもとで、看護分野では、医師から看護師へのタスクシフトが広がっています。また、専門的な看護職としての制度ができ、高度な看護技術や知識をもち、指導的な立場で活躍する人材の育成も活発になってきました。本学ではこれらのキャリアアップを支援する研修制度や大学院看護学研究科があります。さらに「学びなおしの場」としてリカレントスクールを設けて職場を長期に離れた場合でも速やかに復職できるように支援しています。

リハビリテーション分野では、対象は小児から高齢者まで広範囲に及び、病いやケガによる障害やフレイルによる生活障害を克服する治療は、ICT技術や人工知能を取り入れ急速に開発が進んでいます。リハビリテーション学部では、来年度から大学院生涯健康科学研究科修士課程が開学し、高度リハビリテーションを学びながら開発する機会を設けました。看護学部・リハビリテーション

ン学部および附属医療機関では、各職場で優秀な教員、医師・看護師、理学・作業療法士が集い、実践を通して教育・研究を進め、その成果を医療の場で実践しています。自分の適性や資質を考えて、また、ライフイベントに対応し、それぞれ実践の場で、自分がさらに貢献できる場を見つけ、成長するきっかけをつかんでください。

現在、日本の医療は大きな変革期にあります。高齢化と人口減少によって医師の地域・診療科の偏在化がすすみ、過重労働に対する対策の必要性、医療を支える保険制度や病院経営の悪化が指摘されるなか、国民すべてに質の高い医療を提供することの困難さが浮き彫りになってきました。その中で医療人は安心して暮らすことができる社会の基盤として国民の負託に応えなくてはなりません。コロナ禍を経て、社会は皆さんの価値を改めて実感しました。今こそ、皆さんの力が求められています。医療現場では円滑なコミュニケーションでチーム医療を実践し、患者さんには笑顔をもって接し、安心と希望をあたえること、患者さんからの感謝を糧に自己研鑽に励み、より良い医療を実践すること、これは医療人が持つべき重要な資質であり、「慈仁心鏡」に通じる精神です。

本学での学びを糧に国内外を問わず、広く活躍する医療人として大きく成長することを願ってやみません。

以上、私の式辞といたします。

看護学部長祝辞

看護学部長 加藤 令子

本日、ご卒業を迎えられた89名の卒業生の皆様、おめでとうございます。そして、これまで支えてこられたご家族・保護者の皆様にもこころよりお慶びを申し上げます。本日卒業を迎えられた皆様は、新型コロナウイルス感染症の世界的なパンデミックの中で入学されました。

大学生活に期待と希望を持ち入学された中、1年次の多くの科目は遠隔授業となり、演習は指定された日時に登校し、マスクとフェイスシールドを着用しての実施、また、2年次の実習は思い描いていたものとは異なる多くの制約の中で行われました。この様な状況下での学びでしたが、皆様は看護者として大きく成長され、今日を迎えられることになりました。私は皆様にお会いする度に、皆様の顔が凛々しくなり、日ごとに看護者となる自覚の高まりを感じておりました。

本学部の目指す教育は、時代や地域を越えて通用する「看護の力」を培うことであり、本学部は、全員が看護師と保健師の国家試験受験資格を有する統合カリキュラムとなっています。このカリキュラムは、主に個人の生活や健康に視点を当て、その人個人や家族を対象にしたケア構築を学ぶ教育と、人々の生活や健康を地域という

集団で捉え、政策的に集団へのアプローチを通して人々の健康の維持増進を学ぶ教育とが統合されたものです。本学部で学ばれた皆様は、この両方の視点を持ち、時代や地域を越えて通用する知識や実践の基礎およびその活用方法を4年間で修得されました。

建築物でも樹木でも安心・安定したものとなるには、基礎となる部分が重要です。建築物の場合は土台であり、樹木の場合は根となります。樹木に例えると、丈夫な根が幅広く張られた樹木は、幹が安定しており、枝葉も充実したものとなります。

皆様がこの4年間、学ばれた基礎部分である根は、個人と家族を対象とした視点と地域という集団を捉えた視点との両者から成り立つ、広く深く張られた根であり、支援を必要とする方々へのケア構築とその方法を広い視野の基に可能とするものです。



祝辞を述べる加藤学部長



看護理論家であり実践者であるドロセア E. オレムは、著書『オレム看護論』で、3つの理論を提示しています。セルフケア理論、セルフケア不足理論、看護システム理論です。セルフケア理論は、自己管理能力がある方へのかかわりであり、セルフケア不足理論は疾病や障害のある方がセルフケアでは補えなくなった部分へのケア提供を意味します。看護システム理論は、支援を必要とする方と看護者の役割とその介入方法です。

皆様は本学でこの3つの理論の全てを学修したことになります。今後、皆様は、本学での学びの根をますます丈夫にし、自分の目標に向かい幹をつくり、枝葉を育てていくことになります。

医療も社会環境に大きく左右されます。我が国は、少子高齢社会が加速し、人口の減少も著しい状況にあります。この状況は、改善が望まれますが、今後も同様の経過をたどることが予測されています。また、医療者には、これからの時代、必ず発生するといわれている大規模自

然災害や新たな感染症への備えが求められています。さらに、我が国に在住する外国にルーツを持つ方々の増加により、多様な文化的背景や価値観を持つ方々へのケアも求められます。そのため、皆様には日々のケアだけではなく、未来の社会や人々のために、自分が何に貢献できるのか、また、どのように貢献できるのかを考え、医療者としての知見を広げ、柔軟な思考のもとでの対応が求められます。今後、皆様には、安定した幹と柔軟性のある枝葉を育て、新たな看護を創造する力を持ち続けていただきたく期待いたします。

そして、学びを深めたいと考えた時には、是非、本学の大学院で学び、さらなる看護の知を探究し、高度な実践力を修得していただきたいと思っております。

本学の卒業生であることに誇りを持ち、今後は様々なことにチャレンジし、専門職者として自己成長に努めていただくことを期待して祝辞といたします。

ご卒業おめでとうございます。

…………… リハビリテーション学部長祝辞 ……………

リハビリテーション学部長 飯田 寛和

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんは関西医科大学リハビリテーション学部の1期生として、4年間牧野学舎で学業に励まれ様々なご苦労があったと思いますが、それを乗り越えて本日のよき日を迎えられました。

4年前を思い起こせば、新型コロナウイルスパンデミック、先輩もいない中、オンライン授業など逆境の中を過ごされ、これらを乗り越えられた訳であります。

諸君の入学式において、私は以下のことをお話しさせて頂きました。

「皆さんは、様々な理由から本学で学ぶことを決められたと思います。障害をもった患者さんの役に立ちたい、自分自身が過去に怪我や病気をしてその時世話になったことがきっかけである、スポーツ選手が怪我を克服して活躍している姿を見て、その世界に生きたいと思った、などがあると思います。どのような動機であっても、自身が選んだ仕事で人の笑顔に接することは幸せです。楽しいことばかりではありませんが、皆さんが今後やりがいと生きがいを感じられる専門職になれるように一緒に頑張りましょう。」と申しました。

また、「リハビリテーション医学では、多く専門職が関与するチーム医療が重要であり、今行おうとしている診断や治療などの医療行為を自分がしっかり理解しているか、していないかを自覚でき、自ら考え協調し行動することが要求されます。」と述べました。

言い換えれば、単なる教科書の知識の受動的認識から、

患者さんを教師とした能動的学習の積み重ねが期待されるわけです。皆さんは4年間で多くの経験を積み、臨床実習や卒業研究を通して学ばれました。皆さんの卒業論文集を拝見しましたが、実に多方面、基礎的動物実験から臨床に直結する最先端機器を使用した研究や、詳細な評価に基づ

く疫学的研究など、各分野の専門家である指導教員の下、実に立派で新鮮な切り口の研究成果を残されたことに感心いたしました。この経験が受け身でなく、今後能動的に自ら考える土台になると期待しています。

これから臨床の現場に携われますが、医療職においては特に最初の数年間が大切であると常々思っております。新しい環境で苦労も多いでしょうが、駆け出し時代に若さと熱意を持って努力すれば、その後大きく実を結ぶことができ、達成感と生きがいがある世界が待っていると私は信じております。

関西医科大学リハビリテーション学部1期生の皆さんが今後理学療法士、作業療法士として、後輩の模範となるような活躍をされることを期待して、私の学部長としての祝辞とさせていただきます。



祝辞を述べる飯田学部長



今号掲載期間の主な出来事をご紹介します (記事掲載はオレンジ太字)

法人	1月29日	目標チャレンジ制度優秀者表彰	
	2月20日	附属病院別館起工式	
	4月1日	入職式	
大学	2月20日	学長賞授賞式	
	3月5日	医学部卒業式	
	3月5日	研究医養成コース修了証授与式	
	3月10日	医工学センター国際シンポジウム	
	3月14日	大学院看護学研究科学位授与式	
	3月14日	国家試験結果発表(医師)	
	3月19日	看護学部・リハビリテーション学部卒業式	
	3月21日	国家試験結果発表(理学療法士・作業療法士)	
	3月24日	国家試験結果発表(看護師・助産師・保健師)	
	3月25日	大学院医学研究科学位記授与式	
	3月25日	医学会賞贈呈式	
4月5日	入学式		
附属病院	1月29日	がん教育講演会(がんプロ事業)	
	1月31日	がん教育講演会(がんプロ事業)	
	2月1日	市民公開講座	
	2月1日	関西アレルギーカンファレンス	
	2月13日	がん教育講演会(がんプロ事業)	
	2月28日	クラウドファンディング記者会見	
	3月1日	アレルギーセンター府民公開講座	
総合医療センター	1月23日	ミニ市民健康講座	
	3月1日	市民健康講座	
卒後臨床研修センター	3月27日	令和6年度臨床研修医・研修歯科医修了式	
	4月1日	令和7年度臨床研修医・研修歯科医入職式	
	4月1日	令和7年度専攻医辞令交付式	
オール女性医師キャリアセンター	2月26日	子育て世代の医療職支援事業にかかる講演会	
	3月14日	女性医師奨励賞(アプリコット賞)及び第2回女性医師活躍推進賞(アプリコットサポート賞)表彰式	

目標チャレンジ制度優秀者表彰

医学会賞贈呈式

令和7年度臨床研修医・研修歯科医入職式

令和7年度専攻医辞令交付式

医工学センター国際シンポジウム

「施設設備整備拡充事業資金」の募集のご案内

～日常への感謝を胸に「一流の大学」としての存続と改革へ～
皆様からのご協力をお願い申し上げます

平素より関西医科大学に対して、温かいご支援、ご協力を賜わり心より厚く御礼申し上げます。

本学は、昭和3年の創立以来慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成することを「建学の精神」とし、自由・自律・自学の学風のもと、人間性豊かな良医を育成することを「教育の理念」として多くの医師を世に送り出してまいりました。

施設設備の整備状況ですが、附属病院別館建設事業については令和7年3月に着工し、令和9年秋ごろの完成を目指します。総合医療センター西館の建設計画については、令和7年度末に着工する予定です。今後、教育環境充実のために総合グラウンドの整備も計画しており、100周年に向けてさらなる施設の充実を図ってまいります。

本学が、医学部と看護学部、リハビリテーション学部の3学部を有する医療系複合大学として社会の期待に応えるためにも、今年度も下記のとおりご寄付の募集をさせていただくことになりました。この趣旨をご理解いただきまして、何卒ご支援、ご協力賜わりますようよろしくお願い申し上げます。

令和7年度募集要項

令和7年度募集要項

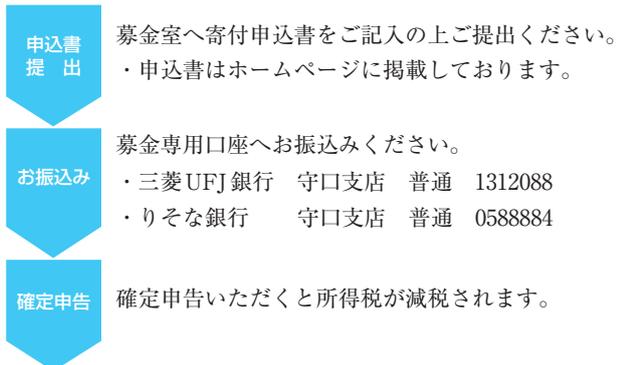
募集主体	学校法人関西医科大学
募集対象	保護者、同窓会員、本学関連の個人及び法人、その他
募集期間	令和7年4月5日～令和8年3月31日

なお、この募金の応募は任意です。

【お問い合わせ先】

関西医科大学法人事務局募金室
〒573-1010 大阪府枚方市新町二丁目5番1号
TEL：072-804-2146 FAX：072-804-2344
メール：bokin@hirakata.kmu.ac.jp
WEBサイト：https://www.kmu.ac.jp/donation/index.html

募金のお手続き



税制優遇措置のご案内

個人の場合 課税所得額の控除（所得控除）、又は所得税額の控除（税額控除）いずれかの選択となります。

【所得控除】

年間の寄付金額（所得の40%が限度）から2千円を差し引いた額が、課税所得額から控除されます。

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{寄付金額} \\ \hline \text{(年間所得合計額の40\%が限度)} \\ \hline \end{array} - 2,000\text{円} = \text{所得控除額}$$

【税額控除】

年間の寄付金額（所得の40%が限度）から2千円を差し引いた額の40%相当額が、所得税額から控除されます。ただし、所得税額の25%が限度です。

$$\left[\begin{array}{|c|} \hline \text{寄付金額} \\ \hline \text{(年間所得合計額の40\%が限度)} \\ \hline \end{array} - 2,000\text{円} \right] \times 40\% = \text{税額控除額} \\ \text{(所得税額の25\%が限度)}$$

法人の場合 【受配者指定寄付金】

寄付金全額が当該事業年度の損金に算入できます。日本私立学校振興・共済事業団を通し、本学を受取先に指定してご寄付をしていただく制度です。

小児がん患者向けメタバースアプリ開発クラウドファンディング実施記者会見 医

医学部小児科学講座大町太一講師は、小児がん患者と家族が安心してつながり続けられる仮想空間(メタバース)の専用アプリ「Emo-Link」の開発に着手します。この資金獲得のため、READYFOR株式会社が展開するサービスを利用して広く寄付を募ることとなりました。本件について、2月28日(金)11時から枚方キャンパス医学部棟4階中会議室において、記者会見が行われました。

会見では齋藤貴徳産学知財社会貢献担当副学長、医学部小児科学講座金子一成教授・副学長による挨拶の後、大町講師がクラウドファンディングの実施目的や概要を説明しました。

小児がん患者さんやそのご家族は、悩みや不安を抱えて当事者同士の交流を必要としています。しかしながら小児がんは希少疾患であり当事者同士が会う機会自体が少なく、交流の役割を担ってきた患者会には時間や空間などの面で多くの制約があります。これを解決する手

段の一つとして、いつでもどこからでも患者さんとそのご家族、そして医療従事者らが安心してつながり続けられるアプリの開発を目指し、クラウドファンディングの実施決定に至りました。

※プロジェクト開始後、多くの方々からご支援を頂戴し、第一目標である500万円、4月28日の締切りには600万円に到達いたしました。心から感謝申し上げます。



質疑応答で質問を受ける大町講師(左)

「看護学教育評価」適合と認定 看

関西医科大学は、令和7年3月31日付で、本学の看護学教育プログラムが一般財団法人日本看護学教育評価機構の基準に適合していると認定されました。



大学院生涯健康科学研究科開設 リ

令和7年4月、大学院生涯健康科学研究科を開設しました。研究科長にはリハビリテーション学部長である飯田寛和が就任いたしました。

■ 生涯健康科学研究科概要

開設時期：令和7年4月

開設場所：関西医科大学枚野キャンパス

(〒573-1136大阪府枚方市宇山東町18番89号)

修業年限：2年

入学定員：8名

取得学位：修士(生涯健康科学)

教育理念

こどもから高齢者まで生涯にわたる最先端の健康科学の専門教育と研究に関する人材育成を行うことで、リハビリテーションのみならず保健・医療・福祉・教育分野に関する健康先進国創造に貢献することを理念とします。

令和7年度 医学部教務関係日程表

1学年	
4/5(土)	入学式
4/7(月)~9(水)	新入生健康診断・ガイダンス
4/10(木)	1学期開講
4/24(木)・25(金)	新入生合宿研修
5/3(土)~5/6(火)	休講(5月連休)
6/30(月)	創立記念日
7/22(火)	1学期終講
7/23(水)~8/18(月)	夏季休業
8/19(火)	2学期開講
10/31(金)~11/2(日)	学園祭
12/19(金)	2学期終講
12/22(月)~1/4(日)	冬季休業
1/5(月)	3学期開講
2/2(月)	3学期終講
3/11(水)	卒業式

2学年	
4/7(月)	1学期開講
4/23(水)	学生定期健康診断
5/3(土)~5/6(火)	休講(5月連休)
6/30(月)	創立記念日
7/11(金)	1学期終講
7/14(月)~8/15(金)	夏季休業
8/18(月)	2学期開講
10/31(金)~11/2(日)	学園祭
12/18(木)	2学期終講
12/19(金)~1/4(日)	冬季休業
1/5(月)	3学期開講
1/23(金)・26(月)・27(火)	臨床実習 P2(看護実習)
2/9(月)	3学期終講
3/11(水)	卒業式

3学年	
4/7(月)	1学期開講
4/22(火)	学生定期健康診断
5/3(土)~5/6(火)	休講(5月連休)
5/15(木)	解剖体追悼法要
6/27(金)・7/7(月)・7/15(火)	臨床実習 P3(医療面接入門)
6/30(月)	創立記念日
7/22(火)	1学期終講
7/23(水)~8/15(金)	夏季休業
8/18(月)	2学期開講
10/31(金)~11/2(日)	学園祭
12/19(金)	2学期終講
12/22(月)~1/4(日)	冬季休業
1/5(月)	3学期開講
1/5(月)	プレCBT総合試験
1/6(火)~2/9(月)	リサーチ P3(配属実習)
2/9(月)	3学期終講
3/11(水)	卒業式

※休講日及び休業期間においても試験・授業等を行うことがあります。

4学年	
4/7(月)	1学期開講
4/22(火)	学生定期健康診断
5/3(土)~5/6(火)	休講(5月連休)
6/30(月)	創立記念日
7/31(木)	1学期終講
8/1(金)~8/15(金)	夏季休業
8/18(月)	2学期開講
9/10(水)	共用試験 CBT
9/11(木)~10/2(木)	臨床実習 P4a(総合臨床医学実習)
10/3(金)~10/4(土)	臨床実習前 OSCE
10/6(月)~10/10(金)・11/12(水)・13(木)	臨床実習 P4b(医療情報学)
10/14(火)~11/11(火)	臨床実習 P4c(プレクリニカル・クラークシップ)
10/31(金)~11/2(日)	学園祭
未定	白衣授与式
12/8(月)~12/19(金)	臨床実習
12/19(金)	2学期終講
12/22(月)~1/4(日)	冬季休業
1/5(月)	3学期開講
1/5(月)~3/19(木)	臨床実習
3/11(水)	卒業式
3/19(木)	3学期終講

5学年	
3/31(月)	1学期開講
3/31(月)~8/1(金)	臨床実習
4/23(水)	学生定期健康診断
5/3(土)~5/9(金)	休講(5月連休)
未定	クリニカル・クラークシップ中間検討会
8/1(金)	1学期終講
8/4(月)~8/20(水)	夏季休業
8/21(木)	2学期開講
8/21(木)	総合試験①
8/25(月)~12/19(金)	臨床実習
10/23(木)	総合試験②
12/19(金)	2学期終講
12/22(月)~1/4(日)	冬季休業
1/5(月)	3学期開講
1/5(月)~3/19(木)	臨床実習
3/11(水)	卒業式
3/19(木)	3学期終講

6学年	
3/31(月)	1学期開講
3/31(月)~7/18(金)	臨床実習
4/7(月)	学生定期健康診断
5/3(土)~5/9(金)	休講(5月連休)
7/19(土)	臨床実習後 OSCE
7/19(土)	1学期終講
7/22(火)~8/15(金)	夏季休業
8/18(月)	2学期開講
8/18(月)~8/19(火)	卒業試験①
8/25(月)~10/10(金)	まよめの講義(予備・自習含む)
10/15(水)~10/16(木)	卒業試験②
10/17(金)	2学期終講
10/20(月)	冬季休業開始(以降自習期間)
3/11(水)	卒業式

令和7年度 看護学部教務関係日程表



1~4年次	
4/2(水)	健康診断(2・3年)
4/2(水)~4/3(木)	在学生オリエンテーション
4/5(土)	入学式
4/7(月)	2~4年生前期開講
4/7(月)~4/9(水)	新入生オリエンテーション
4/9(水)	健康診断(1・4年)
4/10(木)	1年生前期開講
4/24(木)~4/25(金)	新入生合宿研修
6/30(月)	創立記念日
7/24(木)~7/31(木)	学期末試験期間
7/31(木)	前期終講
8/9(土)~9/30(火)	夏季休業
10/1(水)	後期開講
10/31(金)~11/2(日)	学園祭
12/24(水)~1/4(日)	冬季休業
2/9(月)~2/16(月)	学期末試験期間
2/16(月)	後期終講
3/11(水)	卒業式

※今年度、3学期制から前期後期の2学期制に移行。

令和7年度 リハビリテーション学部教務関係日程表



1~4年次	
4/5(土)	入学式
4/7(月)~4/9(水)	新入生オリエンテーション・健康診断(1・4年)
4/7(月)	2・3・4年次前期開講
4/10(木)	1年次前期開講
4/24(木)~4/25(金)	新入生合宿研修
4/28(月)	健康診断(2・3年)
6/30(月)	創立記念日
8/1(金)~8/13(水)	学期末試験期間
8/13(水)	前期終講
8/14(木)~9/30(火)	夏季休業
10/1(水)	後期開講
10/31(金)~11/2(日)	学園祭
12/27(土)~1/4(日)	冬季休業
2/2(月)~2/13(金)	学期末試験期間
2/13(金)	後期終講
2/14(土)~3/31(火)	春季休業
3/11(水)	卒業式

※各学部教務関係日程表について、令和7年3月1日現在(変更の可能性有り)

大学関係役員



4月1日(火)からの、大学関係役員体制は次の通りです。

学 長	木梨達雄	医学部教務部長	岡田英孝	附属図書館長	伊藤量基
副学長	金子一成	看護学部教務部長	李 錦純	附属生命医学研究所長	日笠幸一郎
副学長	齋藤貴徳	リハビリテーション学部教務部長		総合研究施設長	清水(小林)拓也
副学長	岡田英孝		池添冬芽	実験動物飼育共同施設長	大隈 和
医学部長・医学研究科長	金子一成	医学部学生部長	谷川 昇	アイソトープ実験施設長	谷川 昇
看護学部長・看護学研究科長	加藤令子	看護学部学生部長	大橋 敦	入試センター長	中川 淳
リハビリテーション学部長・生涯健康科学研究科長	飯田寛和	リハビリテーション学部学生部長		教育センター長	西屋克己
リハビリテーション学部 理学療法学科長	市橋則明		吉村匡史	国際化推進センター長	友田幸一
リハビリテーション学部 作業療法学科長	種村留美	大学院医学研究科教務部長	人見浩史	学 医	倉田宝保
		大学院看護学研究科教務部長	瀬戸奈津子		
		大学院生涯健康科学研究科教務部長	中野治郎		



令和7年度医学部クラスアドバイザー、看護学部学年担任、リハビリテーション学部クラス担任

令和7年度について次の通り決定しました。

【医学部】

1学年	甲田勝康	教授 (衛生・公衆衛生学)
2学年	北脇知己	教授 (数学)
3学年	埜中正博	教授 (脳神経外科学)
4学年	倉田宝保	教授 (呼吸器腫瘍内科学)
5学年	山崎 誠	教授 (上部消化管外科学)
6学年	長沼 誠	教授 (内科学第三)

【看護学部】

1年次	山本大祐	講師 (在宅看護学領域)
2年次	村内千代	講師 (慢性疾患看護学領域)
3年次	太田祐子	准教授 (看護学教育領域)
4年次	矢山 壮	准教授 (精神看護学領域)

【リハビリテーション学部】

理学療法学科	1年次	池添冬芽	教授	作業療法学科	1年次	松島佳苗	准教授
	2年次	野村卓生	教授		2年次	三木恵美	准教授
	3年次	前澤仁志	准教授		3年次	加藤寿宏	教授
	4年次	佐藤春彦	教授		4年次	福井信佳	教授

令和7年度入学試験結果



令和7年度入学試験結果は以下の通りです。

※令和7年4月1日時点

医学部入学試験結果

	志願者	正規合格者	入学者
特別枠学校推薦型選抜試験	44	10	10
一般枠学校推薦型選抜試験	268	13	6
特色選抜試験	75	8	5
一般選抜試験(前期)	1,907	165	55
一般選抜試験(後期)	366	5	9
大学入学共通テスト利用選抜試験(前期)	890	88	10
大学入学共通テスト利用選抜試験(後期)	96	3	3
大学入学共通テスト・一般選抜試験併用試験	847	111	14
地域枠一般選抜試験(大阪府)	33	4	3
地域枠一般選抜試験(静岡県)	47	6	5
地域枠一般選抜試験(新潟県)	7	1	1
計	4,580	414	121

看護学部入学試験結果

	志願者	正規合格者	入学者
学校推薦型選抜試験(専願制)	147	36	36
〈併願制〉	94	15	6
一般選抜試験(2教科型)	334	58	22
〈3教科型〉	410	113	37
大学入学共通テスト利用選抜試験(2教科型)	106	27	2
〈3教科型〉	137	33	2
〈5教科型〉	78	25	0
計	1,306	307	105

リハビリテーション学部(理学療法学科)入学試験結果

	志願者	正規合格者	入学者
総合型選抜試験	27	10	10
学校推薦型選抜試験(専願制)	28	20	20
〈併願制〉	16	11	8
一般選抜試験(2教科型プラス)	17	4	1
〈3教科型〉	67	21	14
大学入学共通テスト利用選抜試験(2教科型)	39	20	1
〈4教科型〉	45	21	8
計	239	107	62

リハビリテーション学部(作業療法学科)入学試験結果

	志願者	正規合格者	入学者
総合型選抜試験	18	9	9
学校推薦型選抜試験(専願制)	6	6	6
〈併願制〉	10	9	8
一般選抜試験(2教科型プラス)	13	12	5
〈3教科型〉	26	25	7
大学入学共通テスト利用選抜試験(2教科型)	19	19	2
計	92	80	37

大学院医学研究科修士課程入学試験結果

	志願者	合格者	入学者
第一次募集	4	4	3
追加募集	1	1	1
計	5	5	4

大学院医学研究科博士課程入学試験結果

	志願者	合格者	入学者
第一次募集	26	26	25
追加募集	14	14	14
計	40	40	39

大学院看護学研究科入学試験結果

	志願者		合格者		入学者	
	博士前期課程	博士後期課程	博士前期課程	博士後期課程	博士前期課程	博士後期課程
夏期日程	2	1	2	0	2	0
冬期日程	7	0	6	0	6	0
計	9	1	8	0	8	0

大学院生涯健康科学研究科修士課程入学試験結果

志願者	合格者	入学者
10	10	9

医師国家試験結果

医

3月14日(金)に第119回医師国家試験の結果が発表されました。本学の新卒受験者134名のうち121名が合格し合格率は90.3%、新卒および既卒を合わせた受験者総数では、本学受験者147名のうち130名が合格し合格率は88.4%でした。

看護師・保健師・助産師国家試験結果

看

令和7年3月に看護学部を卒業した第4期生は、卒業生89名全員が看護師国家試験および保健師国家試験に合格、さらに選択制である助産師コース卒業生9名の全員が助産師国家試験に合格し、3資格全てで合格率100%を達成しました。

看護学部生全員が看護師、保健師の国家試験受験資格を取得できるのは、関西圏の私立大学では本学だけです。医学部・リハビリテーション学部と多彩な附属医療機関を持つ本学ならではの環境、地域を意識した本学独自のカリキュラムや充実したバックアップ体制が今回の結果につながりました。

令和7年3月卒業生(新卒者)国家試験結果

国家試験	回数	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)	全国平均	
					新卒者(%)	全体(%)
看護師	114	89	89	100	95.9	90.1
保健師	111	89	89	100	96.4	94.0
助産師	108	9	9	100	99.3	98.9

理学療法士・作業療法士国家試験結果

リ

リハビリテーション学部ではキャリア支援委員会を中心に教職員一丸となって、学習を支援しています。初の卒業生を輩出する年度である令和7年3月の国家試験では、理学療法学科、作業療法学科ともに、合格率100%を達成しました。

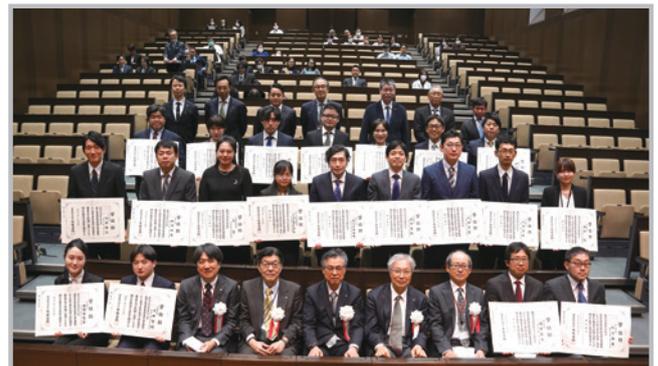
令和7年3月卒業生(新卒者)国家試験結果

国家試験	回数	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)	全国平均	
					新卒者(%)	全体(%)
理学療法士	60	46	46	100	95.2	89.6
作業療法士	60	12	12	100	92.5	85.8

令和7年3月度大学院医学研究科学位記授与式

医

3月25日(火)15時から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において、木梨達雄学長をはじめ大学院医学研究科金子一成研究科長、同人見浩史教務部長、同中邨智之教務副部長や指導教員らが列席し「令和7年3月度大学院医学研究科学位記授与式」が挙行され、課程博士16名、論文博士1名、修士4名に、木梨学長から学位記が授与されました。その後の学長式辞では学位取得者の努力を労う激励の言葉が贈られました。



学位記を手にする授与者

令和6年度大学院看護学研究科学学位授与式

看

3月14日(金) 11時から枚方キャンパス看護学部棟2階講義室1において、木梨達雄学長、大学院看護学研究科加藤令子研究科長、関西医科大学看護同窓会安田照美会長らが列席し「令和6年度大学院看護学研究科学学位授与式」が挙行されました。式では、木梨学長から博士前期課程の修了生6名、博士後期課程の修了生2名に学位記が授与されました。その後、木梨学長の告辞、加藤研究科長の祝辞が述べられ、修了生たちの学位取得の努力を労い、今後の新たな一步を祝福する言葉が贈られました。博士前期課程、博士後期課程修了生の

各代表者からは、教職員ならびに研究にかかわった方々への感謝の言葉と今後の決意が述べられました。



学長から学位記を授与される修了生

研究医養成コース修了証授与式

医

3月5日(水) 15時から枚方キャンパス医学部棟4階カフェテリアにおいて、研究医養成コース修了証授与式が行われました。研究医養成コース運営委員会中邨智之委員長(医学部薬理学講座教授)から今後の活躍を期待する祝辞が述べられた後、研究医養成コースの課程を修了した医学部6学年1名に修了証書が授与されました。



修了証書を授与された修了生

令和6年度医学部教員評価優秀者表彰式

医

3月13日(木) 14時50分から枚方キャンパス医学部棟4階中会議室において、令和6年度の「医学部教員の活動状況調査票」に基づく教員評価優秀者への表彰式が開催されました。

本学では平成15年から、教員個人の活動状況を定期的に点検・評価することにより、教育活動の激励または改善のための助言を行い、教育、研究、診療などの向上を図ることを目的に教員評価を行っています。対象者全員から提出された活動状況調査票をもとに一定の基準を達成した教員を表彰[※]しており、今年度は准教授7名、講師14名、助教34名が選出されました。表彰式では木梨達雄学長から代表の受賞者に表彰状と副

賞が贈呈されました。なお教員評価表彰者一覧は本学Webサイトに掲載しています。

※各職位において通算3回表彰された教員は対象外



学長から表彰される受賞者

第24回 関西医科大学医学会賞

令和6年12月7日(土) 13時から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において、第24回関西医科大学医学会賞の応募口演が行われました。選考の結果、第24回関西医科大学医学会賞に選ばれた4名には、3月25日(火) 15時から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂で行われた贈呈式にて医学会賞が授与されました。

1位 小児科学講座 寺本 芳樹 助教

■演題 「川崎病の罹患感受性因子としての腸内細菌叢の乱れ」

この度は関西医科大学医学会賞を授与していただき誠にありがとうございます。今回の私の研究では川崎病と腸内細菌叢の乱れの関わりを示しました。川崎病の病因の究明は数ある小児疾患のなかでも一大テーマであり、これに対してひとつの研究結果として世界に発表できたことを誇りに思います。本賞の他にも日本川崎病学会「川崎賞」を受賞する等、多方面で評価をいただきました。これも多くの方々からの多大なるご指導の賜物と存じます。私自身はこの研究を通して未知の事柄を探求する姿勢や方法を学びました。本賞の受賞を励みとし、今後も医学へ貢献できるよう、より一層の努力を重ねていきたいと思っております。



2位 内科学第三講座 小林 三四郎 助教

■演題 「Intravenous injection of tumor extracellular vesicles suppresses tumor growth by reducing the regulatory T cell phenotype (腫瘍細胞由来細胞外小胞の静脈内への投与は、制御性T細胞のフェノタイプを減弱し、腫瘍増殖を抑制する。)」

この度は名誉ある関西医科大学医学会賞を賜り、大変光栄に存じます。切除不能大腸癌への抗がん剤治療は日々進歩しておりますが、それでもなおその予後は不良であり、新たな治療法の開発が望まれております。あらゆる細胞が放出する細胞外小胞ですが、既報では癌細胞由来の細胞外小胞は腫瘍の進行を促進する役割が主に報告されてきましたが、マウスの実験にて癌細胞由来の細胞外小胞を反復投与することで腫瘍免疫が賦活化され、腫瘍抑制的に働く可能性を報告することができました。



本研究にあたり御指導いただきました、長沼先生、岡崎先生、分子遺伝学部門の近藤先生、内科学第三講座の先生方、何より粘り強く御指導いただいた富山尚先生に、この場をお借りして心から御礼申し上げます。

3位 iPS・幹細胞再生医学講座 保田 真宏 助教

■演題 「特発性ネフローゼ症候群におけるポドサイトのmTORの役割について：ポドサイトへの誘導法開発と疾患iPS細胞を用いた病態モデルの作製」

この度は名誉ある関西医科大学医学会賞を賜り、大変光栄に存じます。特発性ネフローゼ症候群の主な治療は長期ステロイド療法ですが、再発を繰り返す症例も多く、小児では成長障害も認め、ステロイドの副作用は臨床現場で大きな課題です。今回私は本学大学院に進学し、iPS細胞を用いて、特発性ネフローゼ症候群の病因解明について研究しました。その結果、特発性ネフローゼ症候群の病因と想定されているポドサイトの分化とmTOR活性に関与があることが示唆されました。今後もこの受賞を励みにし、臨床への貢献を目指し、研究を継続して参ります。最後に、この研究において多大なるご指導とご協力を賜った人見浩史教授、金子一成教授、そしてiPS・幹細胞再生医学講座の先生方に対し、この場を借りて深く御礼申し上げます。



3位 小児科学講座 見浪 実紀 助教

■演題 「Effect of a Bifidobacterium-Containing Acid-Resistant Microcapsule Formulation on Gut Microbiota: A Pilot Study」

この度は名誉ある関西医科大学医学会賞を賜り、大変光栄に存じます。私は初期研修2年目に大学院に入学し、小児科臨床研修と並行で臨床研究に取り組みさせていただきました。小児における薬剤投与は困難を要することが多く、投与手法やデバイスの検討をテーマに与えていただき、当科の腸内細菌叢研究への取り組みと合わせて腸溶性マイクロカプセルを用いた本研究を行うに至りました。今後も臨床現場への貢献を目指し、日々の診療とともに研究を継続できればと考えております。最後に本研究にあたり多大なるご指導を賜りました金子一成教授ならびに小児科学講座の先生方にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。



第4回女性医師奨励賞（アプリコット賞）及び第2回女性医師活躍推進賞（アプリコットサポート賞）表彰式

3月14日（金）17時から枚方キャンパス医学部棟4階中会議室において、第4回女性医師奨励賞（アプリコット賞）及び第2回女性医師活躍推進賞（アプリコットサポート賞）表彰式が、オール女性医師キャリアセンター植村芳子センター長列席のもと、行われました。女性医師奨励賞は、本学に勤務する女性医師を対象に、教育・研究・診療の分野において、業績が極めて顕著である者を表彰するもので、女性医師のモチベーションの維持と向上を図り、さらなる活躍を支援することを目的としています。また女性医師活躍推進賞は、本学における女性医師の活躍推進に取り組む講座等の団体による活動内容を顕彰することにより、女性医師が安心して働くことができ、医師としてのキャリアを継続できる職場環境整備の普及啓発を図り、継続的な活動を支援するために創設されたものです。



受賞式後の集合写真

列席した受賞者1名と受賞団体代表者1名に、植村センター長から賞状や記念品が手渡され、植村センター長からは授賞者の活躍を称え、この受賞を機に誰もが働きやすい環境作りをさらに推進してほしいとの声援が送られました。

第4回女性医師奨励賞（アプリコット賞）

● 診療部門

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 濱田 聡子 講師

コメント：この度は栄えあるアプリコット賞を受賞させていただき大変光栄に存じております。私は本学で様々な機会に恵まれ、鼻副鼻腔疾患を中心とした臨床・研究を継続してまいりました。今までご指導いただいた先生方、日頃の診療、研究を支えてくださった周囲のスタッフの皆様、および家族に心より感謝いたします。現在学内外でダイバーシティ、働き方改革活動に携わる機会も増え、男女を問わず積極的に関わる重要性を感じています。今後は、本学においても男女共に活躍できる環境作りに微力ながら貢献していければと考えております。

● 研究部門

神経内科学講座 村上 綾 病院助教

コメント：この度はアプリコット賞をいただき、誠にありがとうございます。これまでご指導くださった先生方、そして職場の同僚や家族に心より感謝いたします。研究・臨床・育児に取り組む中で、思い通りに進まないことや苦勞を感じる場面もありますが、今回の受賞を励みに、恵まれた環境で興味深い研究に携われることに感謝しながら、今後も臨床・研究を続けていきたいと思っております。さらに、微力ながら、女性医師だけでなく様々なバックグラウンドの医師が働きやすい環境づくりにも貢献できればと思います。

第2回女性医師活躍推進賞（アプリコットサポート賞）

小児科学講座（代表：松野 良介 准教授）

コメント：この度、関西医科大学女性医師活躍推進賞（アプリコットサポート賞）を受賞できたことを大変嬉しく思います。当講座では、女性医師が産休・育休後も安心して復職し、キャリアを継続できるよう、柔軟な働き方を支援してまいりました。さらに、男女問わず育児やライフイベントを共有し、支え合う文化を醸成することで、すべての医師が働きやすい環境を整えたいと思っています。本賞の受賞を励みに、今後も働き方の多様性を尊重し、より良い職場環境の整備に努めるとともに、質の高い小児医療の提供を目指してまいります。ご支援いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

学長賞授与式

医

2月20日（木）14時から枚方キャンパス医学部棟4階中会議室において、令和5年度分学長賞授与式が執り行われました。木梨達雄学長、医学部谷川昇学生部長が参加。クラブ活動で功績のあった3名の学生に対し、木梨学長から表彰状と副賞が贈られました。

挨拶に立った木梨学長は自身の学生時代を振り返りながら、勉強と両立する難しさを乗り越え各クラブ活動で活躍した各学生の功績を称え、今後の活躍を願うメッセージを受賞者に送りました。



学長賞受賞者との集合写真

クラブ
活動賞

医学部	2学年	ゴルフ部	莫 嘉遥 さん
医学部	6学年	陸上競技部	和田 寛大 さん
医学部	3学年	陸上競技部	山口 紗季 さん

病 院 **新部門開設**

令和7年2月もしくは4月付で、以下の部門が新設されました。

【附属病院】スポーツ医学センター、スポーツ医学科(令和7年4月開設)

【総合医療センター】呼吸器腫瘍内科、糖尿病センター(令和7年4月開設)

【香里病院】糖尿病センター、予防医療センター(令和7年2月開設) 病理診断科(令和7年4月開設)

附属病院 **がん教育講演会**

1月29日(水)14時25分から寝屋川市内の中学校において、附属病院緩和ケアセンター小西知子看護師(がん看護専門看護師)が全校生徒約350人を対象にがんについての出張授業を行いました。これは大阪府が進める学校教育でのがん啓発活動としての取り組みで、がんに関する知見の社会還元を目的としたものです。

授業では、がんが発生する仕組み、治療方法、緩和ケアなどについてイラストを交えながらわかりやすく解説。内容の濃い講演に聞き入る生徒たちの姿が見られるなど、がん教育の充実が図られる良い機会となりました。



講演を行う小西看護師

附属病院 **市民公開講座**

2月1日(土)13時から、附属病院13階講堂において市民公開講座が開催され、95名が来場しました。市民公開講座委員会蓮尾英明委員長(心療内科診療部長)が開会挨拶に続いて「自分でできる！痛みと不眠のケア」と題した講演を実施。次に精神神経科嶽北佳輝診療科長が「考えてみようココロの病」と題した講演を実施しました。各演題後の質疑応答時には、参加者から健康管理や家族への接し方、最新の治療・研究に関する疑問などが多数寄せられました。



講演中の嶽北診療科長

附属病院 **アレルギーセンター府民公開講座**

3月1日(土)14時30分から、附属病院13階講堂において関西医科大学附属病院アレルギーセンター府民公開講座が開催され、市民ら31名が参加しました。

附属病院アレルギーセンター小林良樹センター長の司会の下、同赤川翔平副センター長による「食べて治す！こどもの食物アレルギー」、附属病院皮膚科岸本泉講師による「塗って治す！小児期からのアトピー性皮膚炎」がそれぞれ講演されました。また、外部講師による「災害発生！アレルギー・アトピーがあると困ること」も講演され、講演終了後はアレルギーセンタースタッフによる個別相談・質問コーナーが設けられました。



赤川副センター長による講演

附属病院 第7回関西アレルギーカンファレンス

2月1日(土) 14時から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂においてWeb配信も併用したハイブリッド形式で、関西アレルギーカンファレンス主催による第7回関西アレルギーカンファレンスが開催されました。

附属病院アレルギーセンター小林良樹センター長による挨拶の後、同赤川翔平副センター長が座長と演者を務めて「食物アレルギーと腸内細菌叢」と、同皮膚科谷崎英昭教授が「15分でわかるアトピー性皮膚炎の最新治療」と、それぞれ題して講演しました。次に、谷崎教授が座長を務めて、大阪医科薬科大学病院皮膚科福永淳准教授(アレルギーセンター副センター長)が「OMPU アレルギーセンターの取り組みと蕁麻疹・汗関連疾患の診かた」と題して特別講演を行いました。当日は現地10名、Web66名の計76名が参加。質疑応答では会場のみなら

ずWeb参加者からも専門的な質問が多く寄せられ、取り上げられた疾患に対して踏み込んだやりとりが交わされました。最後に赤川副センター長が閉会挨拶を述べて、カンファレンスは終了しました。



質問に答える赤川副センター長

総合医療センター ミニ市民健康講座

1月23日(木) 15時から、UR新豊里団地第1集会所(大阪市東淀川区)においてミニ市民健康講座が開催されました。これは地域住民の方に疾患やその予防について知識を深めていただくことを意図したもので、少人数制のため気軽な質問が可能な参加型のイベントです。東淀川区で初めての開催となった今回は、循環器内科太田垣宗光助教が「心疾患にならないための予防医学について」と題して心臓の役割や心疾患の概要、予防方法を講演。その後、地域医療連携部による総合医療センターの紹介と看護師による健康相談会が行われました。当日は20名の参加があり、心疾患に関する疑問を医師や看護師に

熱心に質問する姿が見られました。



参加者からの質問に答える太田垣助教

総合医療センター 第26回市民健康講座

3月1日(土) 14時から、守口文化センターエナジーホール(守口市)において第26回市民健康講座が開催されました。杉浦哲朗病院長による開会挨拶の後、菅俊光副病院長が座長を務め、精神神経科加藤正樹部長・主任教授の「健康に働くためのメンタルヘルス入門～うつ病と不眠症～」、心臓血管病センター成子隆彦センター長の「狭心症・心筋梗塞から守る!～ならないためにならなったら～」、下部消化管外科三城弥範診療講師の「増えている大腸がん～からだに優しくがんを治す術～」の3題が講演され、256名が来場しました。



講演を行う加藤部長・主任教授

くすは野中健康・健診センター

健診・ドックリニューアル

令和7年1月から、これまでの標準的な人間ドック健診に加えて、時代のニーズに応えた先進的な検診メニューを追加しました。

■次世代がん総合健診

尿中のマイクロRNAを解析、早期がんから高精度に判定できるリキッドバイオプシー検査を追加しました。10種(肺、食道、胃、大腸、膵臓、腎臓、膀胱、前立腺、卵巣、乳腺)のがん罹患リスクを判定。旧来の非侵襲的検査と組み合わせて、身体的負担が少なく、より高精度ながん検診が可能になりました。

■脳総合ドック

脳血管障害や、脳腫瘍の早期発見の為に実施してきた脳MRI/MRA検査に加えて、軽度認知障害(MCI)発見のための認知機能検査を追加しました。

詳細については
<https://hp.kmu.ac.jp/kuzuhaekinaka/exam/dock/>
 をご参照ください。



卒後臨床研修センター

令和6年度臨床研修医・研修歯科医修了式

3月27日(木)16時から、附属病院13階合同カンファレンスルームにおいて、「令和6年度臨床研修医・研修歯科医修了式」が挙行されました。附属病院谷川昇病院長代理から同院所属の研修医45名に、総合医療センター杉浦哲朗病院長から同院所属の研修医8名に、附属病院歯科・口腔外科・口腔ケアセンター児島由佳センター長から研修歯科医2名にそれぞれ修了証が授与されました。続いて、谷川病院長代理、杉浦病院長から式辞が、卒後臨床研修センター伊藤量基センター長、研修医アドバイザーの医学部皮膚科学講座谷崎英昭教授から祝辞が述べられました。最後に研修医を代表して為永吉弘さん

が答辞を述べ、穏やかな雰囲気の中、閉式しました。



答辞を述べる研修医代表



オール女性医師キャリアセンター

子育て医師キャリア支援講演会

2月26日(水)16時30分から、本学教職員、学生を対象に「仕事と育児両立のコツ～知らなきゃ損する優遇制度活用術～」と題した講演会がオンラインで開催されました。今年度採択された厚生労働省「令和6年度子育て世代の医療職支援事業」の一環としての取組みで、講演では同事業に係る新規支援内容や実際に利用した支援制度の紹介、人事部からの育児・介護休業法の改正に関する説明がありました。参加者からは、「制度について自ら色々調べるきっかけが得られた」「現在の支援状況を理解することができた」といった感想が寄せられました。

司会：医学部放射線科学講座 河野 由美子 講師

講師：「私のライフイベントと働き方」医学部乳腺外科学講座 遠藤 香代子 病院助教

「男性医師から見た子育て医師への支援制度」医学部内科学第三講座 中丸 洸 助教

「パパ・ママ支援と育児休業法改正」人事部 西川 英明 次長

「子育てをしながら働こう！」医学部神経内科学講座 峠 理絵 診療講師



学会賞等受賞情報

令和6年11月～令和7年3月の学会賞受賞者等を紹介します。

Top Cited Article

医学部胆膵外科学講座 里井 壮平 教授

- テーマ 「Randomized phase II trial of chemoradiotherapy with S-1 versus combination chemotherapy with gemcitabine and S-1 as neoadjuvant treatment for resectable pancreatic cancer (JASPAC 04)」
- 授与団体 Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences



最優秀賞

リハビリテーション学部理学療法学科 山縣 桃子 助教

- テーマ 「感覚閾値以下の電気ノイズ刺激が腰部脊柱管狭窄症患者の姿勢制御能力に与える影響－ピンクノイズ構造を有する新たな電気ノイズ刺激の利用－」
- 授与団体 日本物理療法合同学会大会2025



2024年度IDDI Outstanding Basic and Applied neuroscience Talent Award (IDDI小幡賞)

附属生命医学研究所侵襲反応制御部門 松田 烈士 研究員

- テーマ 「アストロサイトを軸とした全身機能への介入」
- 授与団体 イノベーション創薬研究所



優秀演題賞

附属病院健康科学センター 河津 俊宏 大学院生

- テーマ 「肥満女性の骨格筋量評価における新基準(BMI補正值)の有用性」
- 授与団体 日本心臓リハビリテーション学会 第10回近畿支部地方会



がん教育・啓発活動の絵本

えがお 『笑顔のチケット』が 動画になりました



令和4年に発刊したがん検診促進のための絵本『笑顔のチケット』の動画を公開しました。医療が進歩する現在、早期に発見されたがんの場合、5年生存率は90%近くあり、がんを克服するためには早期発見・早期治療が重要です。北河内地区に属する5つのがん診療拠点病院や各市医師会などで構成される北河内がん診療ネットワーク協議会では、がんて苦しむ人をひとりでも減らしたいという思いから、絵本を制作。公開後に大きな反響をいただき、より多くの方にお届けできるよう、この度動画化いたしました。ぜひご視聴ください。

ご視聴はこちらから





教職員メディア情報

新聞・雑誌などの取材を受け記事が掲載された、あるいはテレビ・ラジオなどに出演した教職員ほかを紹介します。(主に令和7年1月1日～3月31日 ※判明分のみ)

■ テレビ等

附属光免疫医学研究所 小林 久隆 所長	ABCテレビ 「教えて!ニュースライブ 正義のミカタ」 (1月4日)	日本の科学力について討論を行うコーナーで、注目の新技術として小林所長が開発した光免疫療法と研究開発拠点である光免疫医学研究所が紹介されました。
医学部内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	関西テレビ 「旬感LIVE とれたてっ!」 (1月7日)	宮下診療教授がスタジオ出演し、現在流行しているインフルエンザと肺NTM症の違いや感染予防対策について解説しました。
医学部内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	毎日放送 「よんちゃんTV」 (1月7日)	中国で流行の兆しが見られるヒトメタニューモウイルスについて、宮下診療教授による解説コメントが放送されました。
医学部呼吸器腫瘍内科学講座 勝島 詩恵 助教	NHK WORLD JAPAN [Medical Frontiers] (1月13日)	「運動はがんを生き抜くための鍵」と題した番組内で、勝島助教によるがん患者さんへの運動療法の様子やがん悪液質に関するコメントが紹介されました。
医学部小児科学講座 大町 太一 講師	読売テレビ 「news zero」 (2月28日)	小児がん患者やその家族が仮想空間で交流できる専用のアプリを開発するために開始したクラウドファンディングについて、その概要と記者会見の様子が取り上げられました。
看護学部	KEYC-TV (3月18日)	本学看護学部生がアメリカ合衆国ミネソタ州立大学Mankato校で留学プログラムに参加していることが現地のローカルニュースで放送されました。
医学部内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	関西テレビ 「旬感LIVE とれたてっ!」 (3月25日)	宮下診療教授がスタジオ出演し、感染性胃腸炎についての症状、流行の原因、対策について解説した内容が放送されました。
関西医科大学 木梨 達雄 学長 医学部センター ジュセッパ ベッツォッティ 学長特命教授	RaiNews (イタリア) (3月29日)	木梨学長とベッツォッティ教授が本学と学術連携包括協定を結ぶイタリアのヴェネツィア・カ・フォスカリ大学を訪問し、バイオメディカル研究拠点となる「ハブ」を両大学に設置したことが木梨学長、ベッツォッティ教授のコメントが放送されました。

■ WEBメディア等

看護学部子ども看護学領域 石浦 光世 講師	日本看護系大学協議会 「今月の注目看護系大学の教員」 (1月1日)	同コーナーで、石浦講師が小児看護専門看護師の道を選んだ理由やこれまでの経験、自身の取り組み研究や教育活動に関する寄稿記事が掲載されました。
教育センター 西屋 克己 センター教授	MONOist (1月6日)	本学と株式会社テムザックが、生成AIを搭載した医療面接トレーニング用の人型ロボットを開発した旨が掲載されました。
教育センター 西屋 克己 センター教授	電波新聞デジタル (1月14日)	本学と株式会社テムザックが、医療面接をトレーニングするための生成AI(人工知能)を搭載した「医療面接ロボット」のプロトタイプを開発した旨が掲載されました。
看護学部	読売新聞オンライン (1月21日)	看護学部において、常翔啓光学園中学校の生徒が血圧測定や妊婦体験などの看護の体験学習に参加した旨が掲載されました。
医学部精神神経科学講座 嶽北 佳輝 診療教授	Medical Note (1月21日)	嶽北診療教授が遺伝性ジスキネジアについて解説し、特徴や具体的な症状、治療方法や治療で大切にしていることなどを述べた記事が掲載されました。
医学部微生物学講座 大隈 和 教授 足立 哲也 研究員 医学部センター ジュセッパ ベッツォッティ 学長特命教授 生命医学研究所ゲノム解析部門 日笠 幸一郎 研究助教授 安河内 彦輝 講師	日経バイオテック (2月13日)	ベッツォッティ学長特命教授らが高分解能ラマン分光法を用いた研究でインフルエンザA型およびB型ウイルスの不活化「キャッチ・アンド・キル」機構を発見し、新たなウイルス不活化方法を開発したことが掲載されました。
附属光免疫医学研究所腫瘍病理学部門 近藤 英作 学長特命教授	deleteC (2月21日)	近藤学長特命教授の「次世代創薬モダリティPDC・ナノ化学融合ペプチド技術で挑む癌がん治療」が認定NPO法人deleteCの2024年度がん治療研究支援先に選出され、選考理由と研究紹介動画が併せて掲載されました。
医学部総合診療医学講座 尾下 寿彦 講師	日経メディカル (2月27日)	「認知バイアス」を取り上げた連載の中で、尾下講師が診断エラーの実例を取り上げ、医師が陥りやすい感情バイアスと原因、またその対策方法を解説した記事が掲載されました。
附属病院 松田 公志 病院長 稲井 久美子 看護副部長	GemMed (2月27日)	医道審議会・保健師助産師看護師分科会「看護師特定行為・研修部会」(2月26日開催)で、稲井副部長が附属病院の特定行為研修推進方策を取り上げ、松田病院長が強いリーダーシップを発揮して病院全体で特定行為研修修了看護師の育成・活躍を推進していることやタスク・シフトの成果などを紹介したことが掲載されました。
大学院医学研究科イノベーション再生医学 服部 文幸 研究教授	QLifePro (3月3日)	服部研究教授らの研究チームが世界で初めて日本人囊胞性線維症患者のiPS細胞を樹立し、これまでに報告のない遺伝子変異を特定したことが掲載されました。
医学部小児科学講座 大町 太一 講師	号外NET守口・門真 (3月4日)	大町講師が、小児がん患者と家族が仮想空間で安心してつながり続けられる小児がん患者専用アプリ開発に向けクラウドファンディングを実施中であること、その概要発表記者会見を行った記事が掲載されました。
附属光免疫医学研究所 小林 久隆 所長 高倉 栄男 准教授 原 大貴 大学院生	日経バイオテック (3月6日)	高倉准教授らの研究チームが、光免疫療法の光感受性色素の新しいプラットフォームの開発に成功したことが掲載されました。
附属光免疫医学研究所 小林 久隆 所長 高倉 栄男 准教授 原 大貴 大学院生	OPTRONICS ONLINE (3月6日) QLifePro (3月12日)	高倉准教授らの研究グループが、光免疫療法で使用される光感受性色素IR700の誘導体IR702HKTの合成方法を確立し、IR702HKTがIR700とほぼ同等の性能をもつことを示したことが掲載されました。
リハビリテーション学部理学療法学科 田頭 悟志 助教	ICT教育ニュース (3月27日)	田頭助教を代表とする研究チームと株式会社SPLYZAとが、AIによるマーカーレス3D動作分析アプリを活用した動作解析技術に関する共同研究契約を締結したことが掲載されました。
大学院医学研究科イノベーション再生医学 服部 文幸 研究教授	日経バイオテック (3月31日)	服部研究教授らの研究チームがコロナ後遺症と全身性エリテマトーデスの類似性を示した研究結果を発表したことが掲載されました。

■ 新聞・雑誌等

附属光免疫医学研究所腫瘍病理学部門 近藤 英作 学長特命教授	科学新聞 (1月1日)	スマートバイオ創薬等研究支援事業の研究開発課題を特集した記事で、近藤教授が取り組む癌がん細胞標的治療の研究に関するコメントが掲載されました。
総合医療センター 中森 靖 副病院長	読売新聞オンライン (1月5日)	免疫が弱った患者さんへの対応の知見をまとめた「臨床対応指針案」を国立感染症研究所などの研究班が策定したことを受けた記事で、治療成績を改善できていることを踏まえ心配しすぎないように呼び掛けた中森副病院長がコメントが掲載されました。
看護学部精神看護学領域 三木 明子 教授	読売新聞 朝刊 (1月10日)	医師によるパワハラを取り上げた記事で、三木教授が「パワハラの芽は早急に摘む必要がある」と述べたコメントが掲載されました。
教育センター 西屋 克己 センター教授	電子デバイス産業新聞 (1月16日)	本学と株式会社テムザックが、生成AIを搭載した医療面接をトレーニングするための「医療面接ロボット」を開発した旨が掲載されました。
附属光免疫医学研究所 小林 久隆 所長	ライフライン21 がんの先進医療 第56号 (1月30日)	第1回光免疫療法研究会(2024年12月22日開催)において、発起人である小林所長が、治療できる医療機関が拡大したことや光免疫療法への展望について発表したことが掲載されました。
西山 利正 名誉教授	読売新聞 夕刊 (2月18日)	加齢に伴う心身機能の衰え「フレイル」予防を扱った記事で、本学が滋賀県のスーパーマーケットと共同で行った研究の結果が取り上げられ、運動をこらすことで骨折や転倒のリスクを減らす効果があるとした西山教授のコメントとあわせ掲載されました。
医学部精神神経科学講座 嶽北 佳輝 診療教授	大阪保険医新聞第2163号 (3月15日)	守口支部京阪沿線臨床懇談会「最新のアルツハイマー型認知症治療を概観する～抗アミロイドβ抗体薬の臨床を含めて」において嶽北診療教授が講師を務め認知症とその治療に関して講演を行ったことが掲載されました。
附属病院看護部 谷口 孔明 副部長	テアテ vol.26 (3月20日)	被災地で最前線を支える災害支援のプロフェッショナルナースの特集で、谷口副部長の東日本震災や能登半島地震での活動についての記事が掲載されました。

※このコーナーは主要な放送局、新聞、雑誌の掲載情報が対象ですが、研究成果に関する記事は、その限りではありません。

編集後記

寒い冬が過ぎ、あつという間に桜の季節がやってきました。年を重ねるにつれて、1年がどんどん短く感じるようになります。本学では、4月に大学院生涯健康科学研究科が新たに開設され、3学部3研究科が揃う新年度のスタートとなりました。さらに進化する関西医科大学の魅力を広報誌を通じてたくさんお伝えできるようにがんばります。(Y)

関西医科大学広報 Vol.69

発行 学校法人 関西医科大学
編集 広報戦略室

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1 TEL 072-804-0101(代表)
FAX 072-804-2638

<https://www.kmu.ac.jp/>
E-mail:kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

令和7年5月16日(金)発行